

Faculty

第5回FD研修会報告書

2009. 3

Development

FD 委員会

金沢学院短期大学

目 次

開催にあたって	副学長 吉田寛治	1
．新学科「ライフデザイン総合学科」について	吉田寛治	3
．Moodle を活用した e-learning の紹介	R.W.カニンガム	17
．「本学の教育改善」に関する“ポストイット”を用いたグループ討論		35
グループA：就職支援	國田千恵子	
グループB：授業改善アンケート	松井良雄	
グループC：授業改善アンケート	河内久美子	
グループD：卒業時アンケート	小林淳一	
グループE：卒業時アンケート	相良多喜子	
．第5回FD研修会質疑・討論		49
閉会の辞 総括	FD委員長 岡島 厚	53
資料1 平成20年度後期 授業改善のための学生アンケート集計結果		55
資料2 平成20年度 金沢学院短期大学の教育改善に向けた卒業時アンケート		67
資料3 第5回FD研修会 参加者アンケート集計結果		79

開催にあたって

副学長 吉田 寛治

本短大におけるFD研修会も今回で、第5回を迎えることになりました。

岡島FD委員会・委員長の卓越したリーダーシップとともに、FD委員会のメンバーの皆さんの日頃のたゆみない努力のたまもであります。

「FD・・・？それは何ですか？」といわれる時期もありましたが、今や完全に常識となり義務化されました。自分の新人時代と比べ、隔世の感があります。

自分の新人時代は、なにごとにつけても先輩から教わってやっていたように思います。細かいことでは、「教壇では必ず立って講義をせよ、椅子にすわって授業をするのは少人数のゼミか、そのほか特殊な場合のみである・・・」また授業以外では「女子学生が研究室を訪ねてきた場合は、かならずドアを開けておけ・・・」などなどであります。

いまのFDとはずいぶん趣きのちがう世界の話ではありますが、先輩の言葉のなかで、これは大変だなと思った一言があります。それは「学生は先生の後姿を見て育つ」という簡単なひとことです。簡単なひとことではありますが、これは教育者としてまた研究者としての原点を言い表しているように思います。

いずれにしてもFD活動は、義務としてというよりも、むしろわれわれが当然なさねばならない責務として取り組んでいくべき事柄のひとつであります。全教員がおたがいに協力し向上にむかって努力を続けたいと思っております。

・新学科「ライフデザイン総合学科」
について

吉田 寛治



新学科「ライフデザイン総合学科」について

1. 短期大学制度と新学科

(1) 短期大学

わが国の短期大学は、昭和25年4月1日(昭和24年6月法律第179号)学校教育法の一部改正によって暫定的制度として発足したものである。

その後、関係者は短期高等教育としての短期大学制度の必要性和重要性に鑑み、この制度の恒久化を目指して、多くの努力を重ねてきた。その結果、昭和39年6月の法律改正により恒久的制度となり、昭和51年4月に短期大学設置基準が施行され、続いて種々の制度改革が行われて、現在の短期大学制度に至るわけである。

(2) 短期大学の「目的」

現在の学校教育法の規定によれば、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」(第83条)と規定しており、第108条では「大学は、第83条に規定する目的に代えて、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができる。」と規定し、その でこれを目的とする大学はその修業年限を二年又は三年とする。とし、 では、前項の大学は短期大学と称する。としている。

すなわち短期大学の目的は、「職業又は實際生活に必要な能力を育成すること」なのである。

(3) 社会の変化

短期大学の目的が上記であるとするならば、そのキーワードである「職業」と「實際生活」ということについて考えてみる必要がある。現代の短大生にとって、職業とはどのような意味を持つのであろうか、また彼ら(大部分は女性であるが)にとって、實際生活とはどのようなものであるのか、現状と現実を正確に把握し、新学科の構想は練られなければならない。これらの点についての分析には多大な時間と労力を要し、その結果に対する見解については多種多様な考えが存在することは当然である。

しかしながら、種々の見解があるにしても、短期大学制度が社会的制度である以上、短期大学はすくなくとも社会のありようの変化と無関係には存在し得ないのである。すなわち、社会のありようの変化に対応して適切な改革を実行できない短期大学は、もはや退場しかないのである。

社会のありようの変化とはどのようなことであろうか、この点については少なからず時間をかけて議論を重ねた。その結果、厳密な社会学的考察は別として、少なくとも新しい学科に求められることとして、大学全入化に対する対応、産業構造の変化(ICT、インターネット社会など)に対する対応等々が指摘され、これらと本学の持つ独自の歴史的・地域的条件などとの組み合わせについて確認と再構築が行われ、新しい学科の構想が固められた。

2. ライフデザイン総合学科

(1) ライフデザイン総合学科とは

ライフデザイン総合学科とは、キャッチフレーズ的に言えば「なりたい自分を、自分でデザインし、これに挑戦する学科」である。

すなわち、かけがえの無い「自分」と「自分の人生」を、しっかり見つめ、「自分で責任を持って、自分の生き方をデザインする」学科である。

ライフデザイン総合学科の基本的な考え方は、学生の「自主性・主体性の育成」ということができる。自分と自分の人生を大事にし、自分に責任を持つということは同時に他の人の人格を尊重するということにも通じることにもなると考える。

教育の内容は、なによりもまず社会人として一般的に要求される能力、いわゆる「社会人基礎力」(基礎的学力とコミュニケーション能力および礼節)の修得を「必修」とし、次に「なりたい自分」を目指して、選択科目の中から各人の目的にあった科目を選び、自分の時間割を自分で作成し、学習を深めていくこととしている。

(2) カリキュラム編成

カリキュラム編成については、「セメスター制」(学期完結制)とした。全ての授業科目は前期および後期の各学期ごとにそれぞれ完結することとしたのである。

短期大学の2年間は、1年次前・後期、2年次前・後期の4つの学期(セメスター)で編成されていることになる。まず第1セメスター(1年次前期)は「導入期」として新しい環境に慣れること、社会人基礎力の修得と専門基礎科目の一部を履修し、各人の特性や興味を再確認する。次に第2セメスター(1年次後期)は「発展期」ととらえ、ここから各自の目標実現に向かって専門的な学習が行われる。第3セメスター(2年次前期)は「展開期」として専門性の強化と深化の段階とする。最後の第4セメスター(2年次後期)は「総括期」である。「卒業研究」(必修)に取り組むことによって2年間の総まとめをする。

なお、以上のような履修の体系性とは別に、より多面的に学習の幅を広げようとする学生にたいしては、8単位までの他学科科目を卒業要件単位として認めるほかインターンシップや海外研修の単位化を図る特別科目を設定した。

(3) 多様な履修形態

ライフデザイン総合学科では「なりたい自分」を「自分でデザイン」し、「自分の時間割は自分でつくる」という考え方を基本の方針として、卒業要件単位64単位に対して、121科目、222単位を設定しており、このうち必修単位は10単位である。

このことは従来のコース制が必然的にもつ硬直性の改革を試みるものである。しかしながら弾力性のみを強調すれば、これは無秩序なカリキュラムとなってしまう。

そこで実際の履修指導にあたっては、従来のコース制の長所を認識しながらも学生の主体性に配慮した指導を行った。具体的には本学の教育理念は勿論のこと、社会情勢や地域的特性、本学が創立以来60年以上にわたって培ってきたソフトおよびハード面の特性など、様々な角度から検討し学習例として「6つのパターンの履修モデル」(6つの系：分野)を提示した。学生は興味ある「履修モデル」を参考にして各自の履修計画を立てるわけであるが、このほかに第7番目の履修モデルとして「第7の系」を選択することも可能である。

(4) 履修モデル・・・「6つの系」の概要

ライフデザイン総合学科において提示されている「6つの系」の概要は、以下の通りである。

- 1：日本文化&観光系・・・金沢の文学風土と加賀藩以来受け継がれている石川の美術工芸、茶道、華道、能楽、邦楽などの伝統文化を理解し、観光やホテル分野に生かすことを目的とする。
- 2：ビジネス&コミュニケーション系・・・ビジネスワーカーとしての基本的な知識・技能に加えて、言語表現や情報機器を利用した情報伝達の技術、秘書技能、プレゼンテーション、パソコンの利用など、現代社会に要求される能力・技術の修得を目指す。
- 3：フード&ウェルネス系・・・広く「食文化」の面から、食と健康についての専門知識を学び、テーブルコーディネートや健康心理学のほか、加賀の伝統的な食と菓子文化を総合的に学習し、レストランやブライダル関係の進路を目指す。
- 4：カラー&ビジュアル系・・・基礎理論から流行色や化粧品、料理、製品、環境の色彩まで、色彩を扱うカラーデザインの分野およびデザイン理論や印刷、アニメーション、広告デザインなどのクリエイティブなビジュアルデザインの分野を複合的に学ぶ。
- 5：アパレル&ファッション系・・・実践力を持ったファッションの専門能力と衣生活における総合的な能力を備えた人材の育成を目指す。卒業研究の一環で行われるファッションショーでは、学生が自らモデルとなり、自分の作品を発表する。
- 6：スペース&インテリア系・・・より快適で安全な住環境を求める社会のニーズに応え、ユニバーサルデザインやエクステリアデザインについても広く専門知識を身につけた住宅インテリア関連デザイナーの養成を目指す。

3. 地域総合科学科

ライフデザイン総合学科は、短期大学基準協会より適格認定評価を受けた「地域総合科学科」のカテゴリーに属する学科である。

「地域総合科学科」とは、実際の個々の学科名称ではなく、従来の学科のように内容を特定分野に限定せず、地域の多様なニーズに柔軟に応ずることを目的とした新しいタイプの学科の総称で、これからの短期大学の方向性のひとつとして注目されているものである。

これは、平成14年より発足した制度であり、現在全国で約30短大がこの制度をとりいれており、いずれもほぼ順調に推移している。

「地域総合科学科」の特色としては、以下のものがあげられる。

多彩な科目とコース展開・・・分野を特定せず、学生のニーズに対応して、多様な科目を開設。また、半年から2年間までさまざまな期間限定のコースを展開。

科目・コースの柔軟な選択・・・短期大学士をめざした2年コースの履修のほか、科目単位の履修や、複数の短期コースの組み合わせによる履修等、柔軟な履修が可能。

多様な履修形態・・・遠隔授業の活用、夜間コースの開設のほか、パートタイム学生の受け入れ等により、多様な履修形態を提供。

社会人の積極的な受け入れ・・・柔軟なコース選択と多様な履修形態の提供により、社会人の受け入れを積極的に推奨。

第三者機関による適格認定・・・第三者機関である財団法人短期大学基準協会により、地

域総合科学科としての特色と教育の質について適格認定。

本学のライフデザイン総合学科は、平成21年4月より開設ということもあり、現在のところ上記の地域総合科学科の持つ特色を全面的に実現出来ているわけではない。今後は当然のことながら、特色の実現に向かって着実な努力を続けなければならない。

4. 今後の展開

「ライフデザイン総合学科」の今後の展開として、まずは学科構想の原点を常に点検しておかねばならないであろう。すなわち「諸行無常」といわれるように、社会のありようの変化に常に敏感に対応し、学生の「自主性・主体性を尊重し育成」できるようなシステムを維持していかねばならない。

次に、具体的な施策として、「地域総合科学科」としての種々の特色を最大限に生かし充実を図っていくべきであろう。この範疇に入るものとしては、平成21年度からすでに発足している「長期履修学生制度」および「地域文化研究会」などの制度の実質的な整備と活動。おなじく平成21年度に厚生労働省から認可を受けている「YES - プログラム認定講座」(若年者就職基礎能力支援事業)をはじめ、各種資格取得に対する支援の強化などが考えられる。

将来は、アメリカの「コミュニティ・カレッジ」やカナダに見られるような「ユニバーシティ・カレッジ」の制度や特色を積極的に研究し、地域における短期高等教育機関として発展・充実を図っていかねばならない。

地域総合科学科に向けた取組

ライフデザイン総合学科の目指す人材像

広く人生そのものを視野に入れ、創造力と自主性および一人一技に裏打ちされた堅実な人生設計（ライフデザイン）を主体的に描くことができる能力を持った人材の養成を目指す。

地域に生きる よき生活者であり有用な職業人



1

建学の精神の再構成から導かれる 学科の開設目的

地域に生きる よき生活者であり有用な職業人

教育理念 並びに 三つの教育指針

『創造』

ふるさとを愛し、地域社会に貢献する

良識を培い、礼節を重んずる

社会の要請に応え、構想する力、実践する力を育む



金沢女子専門学園 より続く建学の精神

『愛と理性』



2

ライフデザイン総合学科の特色

生きる力の持続

履修科目選択の硬直性を緩和し、変化の激しい時代にあって、適応性を高め、在学中も卒業後も、生涯にわたる多様な「学び」を可能にする。

- より有用な職業人育成の試み
- 多様な履修形態の学生の受入れ
- 専門性の拡張と深化
- 系 + 学習内容の柔軟な選択



3

より有用な職業人育成の試み

- なりたい自分（就職希望分野など）の明確化と取得目標資格の絞り込み
- YES（若年者就職基礎能力支援）プログラム認定に向けた科目開設
- 職業意識の醸成を図る
「キャリアプランニング」「インターンシップ」
- 職種を問わず、また生活者として必修のスキルともいえる情報リテラシー教育
「IT活用実習」
- 総合的企画・提案力を養う「卒業研究」



4

専門性の拡張と深化

- 好きで入学 得意で卒業
【学科共通の専門基礎科目の設置】
 - ▶ 方向がはっきりしている学生
興味を広げ、
系という括りで専門性を深化
 - ▶ 方向の決まっていない学生
「好き」を見つける
- 異分野や関連分野の系を越えて科目の履修ができ、学びの幅が広がる



5

多様な履修形態の学生の受入れ

- 開設科目分野の拡大
食文化、健康、観光などの分野を開設。従来の分野（コミュニケーション、デザインほか）の充実。
- 長期履修学生制度の導入
平成21年度導入
- 科目等履修生の受け入れ
卒業生を主とした受け入れ実績を更に拡大
- 単位互換
本学の参加する大学コンソーシアム石川（UCI）のシティカレッジ事業（単位互換事業）の活用



6

系 + 学習内容の柔軟な選択

- 従来のコース制の持っていた専門分野における体系的学びを維持しつつ、個々の学生が情報を組合せ、あてがい扶持ではない独自の履修カリキュラムを主体的に組み立てて学ぶ。
(学生には、目安として履修モデルを例示)
- 短期的プログラムの集積ではなく、「系」という軸を貫く履修。
- 各「系」には取得目標資格を置く

7

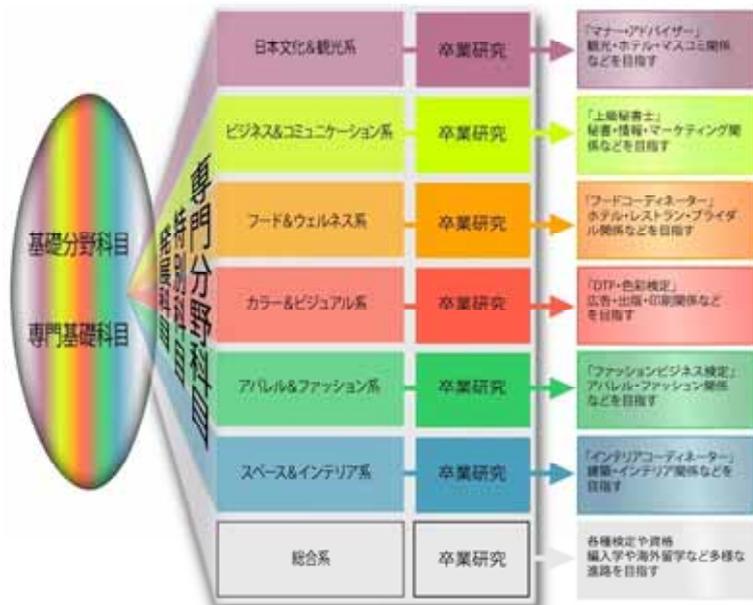
検証

- 入学予定者への志望理由調査
「学びたい学科・コースがあったから」
分野の拡大と取得目標資格等の明示
- 県内高等学校の進路指導者を対象としたヒアリング調査
評価点：豊富な科目群
科目選択の高い自由度
資格・検定試験への配慮
7つの履修系

8

履修の流れ

1セメスター 2セメスター 3セメスター 4セメスター



9

履修モデル例

事例1	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター																																																																																																
<p>資格:「DTP / 色彩検定」</p> <p>就職: 広告、出版、印刷関係</p> <p>カラー感覚に優れたデザイン能力と地域の文化に対する理解で、職場では有用な人材</p> <p>日常的には、しっかりした人生素養・表現力</p>	<table border="1"> <tr><td>基礎科目</td><td>フレッシュマンセミナー</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>ふるさと学</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>IIT活用実習</td><td>1</td></tr> <tr><td>専門基礎科目</td><td>生活色彩論</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>色彩基礎演習</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>デジタルデザイン</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>ふるさと文化</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>日本語表現</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>プレゼンテーション概論</td><td>2</td></tr> </table>	基礎科目	フレッシュマンセミナー	1		ふるさと学	2		IIT活用実習	1	専門基礎科目	生活色彩論	2		色彩基礎演習	2		デジタルデザイン	2		ふるさと文化	2		日本語表現	2		プレゼンテーション概論	2	<table border="1"> <tr><td>基礎科目</td><td>IIT活用実習</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>キャリアプランニング</td><td>1</td></tr> <tr><td>発展科目</td><td>法と社会</td><td>2</td></tr> <tr><td>専門分野科目</td><td>アドバタイジング</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>演色実習</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>ステンドグラス実習</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>カラー・ビジュアルデザインの基礎</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>デザイン創造実習</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>デザイン創造論</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>色彩心理</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>日本語表現</td><td>2</td></tr> </table>	基礎科目	IIT活用実習	1		キャリアプランニング	1	発展科目	法と社会	2	専門分野科目	アドバタイジング	2		演色実習	1		ステンドグラス実習	1		カラー・ビジュアルデザインの基礎	2		デザイン創造実習	2		デザイン創造論	2		色彩心理	1		日本語表現	2	<table border="1"> <tr><td>写真実習</td><td>2</td></tr> <tr><td>エディトリアルデザイン</td><td>2</td></tr> <tr><td>CGアニメーション実習</td><td>2</td></tr> <tr><td>プリンティングデザイン</td><td>2</td></tr> <tr><td>カラーマーケティング</td><td>1</td></tr> <tr><td>機器利用</td><td>2</td></tr> <tr><td>フレキシブリティ演習</td><td>2</td></tr> <tr><td>イングリッシュコミュニケーション</td><td>2</td></tr> <tr><td>海外文化と外国語</td><td>2</td></tr> <tr><td>ライブプランニング</td><td>2</td></tr> <tr><td>卒業研究</td><td>2</td></tr> </table>	写真実習	2	エディトリアルデザイン	2	CGアニメーション実習	2	プリンティングデザイン	2	カラーマーケティング	1	機器利用	2	フレキシブリティ演習	2	イングリッシュコミュニケーション	2	海外文化と外国語	2	ライブプランニング	2	卒業研究	2	<table border="1"> <tr><td>カラーデザイン</td><td>2</td></tr> <tr><td>カラー&ビジュアル論</td><td>2</td></tr> <tr><td>色彩科学論</td><td>1</td></tr> <tr><td>生活創造論</td><td>2</td></tr> <tr><td>パッケージ・ラッピング</td><td>2</td></tr> <tr><td>地域文化論</td><td>2</td></tr> <tr><td>卒業研究</td><td>2</td></tr> </table>	カラーデザイン	2	カラー&ビジュアル論	2	色彩科学論	1	生活創造論	2	パッケージ・ラッピング	2	地域文化論	2	卒業研究	2
	基礎科目	フレッシュマンセミナー	1																																																																																																	
	ふるさと学	2																																																																																																		
	IIT活用実習	1																																																																																																		
専門基礎科目	生活色彩論	2																																																																																																		
	色彩基礎演習	2																																																																																																		
	デジタルデザイン	2																																																																																																		
	ふるさと文化	2																																																																																																		
	日本語表現	2																																																																																																		
	プレゼンテーション概論	2																																																																																																		
基礎科目	IIT活用実習	1																																																																																																		
	キャリアプランニング	1																																																																																																		
発展科目	法と社会	2																																																																																																		
専門分野科目	アドバタイジング	2																																																																																																		
	演色実習	1																																																																																																		
	ステンドグラス実習	1																																																																																																		
	カラー・ビジュアルデザインの基礎	2																																																																																																		
	デザイン創造実習	2																																																																																																		
	デザイン創造論	2																																																																																																		
	色彩心理	1																																																																																																		
	日本語表現	2																																																																																																		
写真実習	2																																																																																																			
エディトリアルデザイン	2																																																																																																			
CGアニメーション実習	2																																																																																																			
プリンティングデザイン	2																																																																																																			
カラーマーケティング	1																																																																																																			
機器利用	2																																																																																																			
フレキシブリティ演習	2																																																																																																			
イングリッシュコミュニケーション	2																																																																																																			
海外文化と外国語	2																																																																																																			
ライブプランニング	2																																																																																																			
卒業研究	2																																																																																																			
カラーデザイン	2																																																																																																			
カラー&ビジュアル論	2																																																																																																			
色彩科学論	1																																																																																																			
生活創造論	2																																																																																																			
パッケージ・ラッピング	2																																																																																																			
地域文化論	2																																																																																																			
卒業研究	2																																																																																																			
<p>資格:「フードコーディネーター」</p> <p>就職: ホテル、レストラン、ブライダル関係</p> <p>食及びもてなしに優れた感覚をもち、ブライダル分野のアドバイザーでも有用な人材。</p> <p>日常的には、健康と他者・異文化理解</p>	<table border="1"> <tr><td>基礎科目</td><td>フレッシュマンセミナー</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>ふるさと学</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>IIT活用実習</td><td>1</td></tr> <tr><td>発展科目</td><td>運動生理学</td><td>2</td></tr> <tr><td>専門基礎科目</td><td>食と文化</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>生活色彩論</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>住空間デザイン</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>ファッション創造論</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>ビジネスマナー</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>ふるさと文化</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>プレゼンテーション概論</td><td>2</td></tr> </table>	基礎科目	フレッシュマンセミナー	1		ふるさと学	2		IIT活用実習	1	発展科目	運動生理学	2	専門基礎科目	食と文化	2		生活色彩論	2		住空間デザイン	2		ファッション創造論	2		ビジネスマナー	2		ふるさと文化	2		プレゼンテーション概論	2	<table border="1"> <tr><td>基礎科目</td><td>IIT活用実習</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>キャリアプランニング</td><td>1</td></tr> <tr><td>発展科目</td><td>社会教養演習</td><td>2</td></tr> <tr><td>専門分野科目</td><td>栄養学</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>フードコーディネート</td><td>1</td></tr> <tr><td></td><td>健康と運動</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>食生活アドバイス論</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>ホスピタリティ論</td><td>2</td></tr> <tr><td></td><td>観光英語</td><td>2</td></tr> <tr><td>特別</td><td>海外研修</td><td>2</td></tr> </table>	基礎科目	IIT活用実習	1		キャリアプランニング	1	発展科目	社会教養演習	2	専門分野科目	栄養学	2		フードコーディネート	1		健康と運動	2		食生活アドバイス論	2		ホスピタリティ論	2		観光英語	2	特別	海外研修	2	<table border="1"> <tr><td>人間関係論</td><td>2</td></tr> <tr><td>フードマネジメント</td><td>2</td></tr> <tr><td>健康と運動</td><td>2</td></tr> <tr><td>(救急措置を含む)</td><td></td></tr> <tr><td>実用外国語</td><td>2</td></tr> <tr><td>海外文化と外国語</td><td>2</td></tr> <tr><td>観光ビジネス</td><td>2</td></tr> <tr><td>異文化間コミュニケーション</td><td>2</td></tr> <tr><td>卒業研究</td><td>2</td></tr> </table>	人間関係論	2	フードマネジメント	2	健康と運動	2	(救急措置を含む)		実用外国語	2	海外文化と外国語	2	観光ビジネス	2	異文化間コミュニケーション	2	卒業研究	2	<table border="1"> <tr><td>テーブルコーディネート</td><td>1</td></tr> <tr><td>食と農のエコロジー</td><td>2</td></tr> <tr><td>生活創造論</td><td>2</td></tr> <tr><td>健康心理学</td><td>2</td></tr> <tr><td>ヘア&メイク</td><td>2</td></tr> <tr><td>卒業研究</td><td>2</td></tr> </table>	テーブルコーディネート	1	食と農のエコロジー	2	生活創造論	2	健康心理学	2	ヘア&メイク	2	卒業研究	2			
	基礎科目	フレッシュマンセミナー	1																																																																																																	
	ふるさと学	2																																																																																																		
	IIT活用実習	1																																																																																																		
発展科目	運動生理学	2																																																																																																		
専門基礎科目	食と文化	2																																																																																																		
	生活色彩論	2																																																																																																		
	住空間デザイン	2																																																																																																		
	ファッション創造論	2																																																																																																		
	ビジネスマナー	2																																																																																																		
	ふるさと文化	2																																																																																																		
	プレゼンテーション概論	2																																																																																																		
基礎科目	IIT活用実習	1																																																																																																		
	キャリアプランニング	1																																																																																																		
発展科目	社会教養演習	2																																																																																																		
専門分野科目	栄養学	2																																																																																																		
	フードコーディネート	1																																																																																																		
	健康と運動	2																																																																																																		
	食生活アドバイス論	2																																																																																																		
	ホスピタリティ論	2																																																																																																		
	観光英語	2																																																																																																		
特別	海外研修	2																																																																																																		
人間関係論	2																																																																																																			
フードマネジメント	2																																																																																																			
健康と運動	2																																																																																																			
(救急措置を含む)																																																																																																				
実用外国語	2																																																																																																			
海外文化と外国語	2																																																																																																			
観光ビジネス	2																																																																																																			
異文化間コミュニケーション	2																																																																																																			
卒業研究	2																																																																																																			
テーブルコーディネート	1																																																																																																			
食と農のエコロジー	2																																																																																																			
生活創造論	2																																																																																																			
健康心理学	2																																																																																																			
ヘア&メイク	2																																																																																																			
卒業研究	2																																																																																																			

*数字は単位数

10

学習条件の整備状況

- **入学時の希望調査**
履修希望が偏った場合も学内施設・設備の調整、時間割の配慮などを行い、希望を最大限尊重する。
- **セメスター制**
全ての科目は半期完結 半期ごとの履修見直し可能
ただし、一定のスキルを必要とする科目は、段階的履修を原則とする。
1～4段階のセメスターは、学びの流れから導入—展開—発展—総括と位置づける
- **履修指導体制**
従前のクラス担任制を継続。さらに系ごとに責任者を置き、専門の視点からアドバイスをを行う。一人一人に目と手の届く授業・指導を目指す。

11

認定評価後の計画

- **新学科開設とその特性の周知徹底**
 - **初年度入学希望者の分析**
 - **地域に開かれた大学イメージの定着**
 - ・ 地域文化研究所(仮称)の設置・充実
 - ・ 短期型プログラムの検討
- 講座内容の検討に加え、時間的、空間的制約の大きい社会人学生の受け入れ態勢について、配慮を要する
- ・ 公開講座の開催とカリキュラムへの組入

12

今後の展開と課題

- 開設科目分野の拡大
多様な興味・要望に対応する科目の開設
- 開講時間、開講場所の拡張
仕事を持つ社会人の受け入れ環境整備
- 多様な科目等履修生の受け入れ
一般社会人の履修希望を促すような講座の検討
- 夜間開講、高校生対象プログラム
メンバーである大学コンソーシアム石川（UCI）の諸事業のさらなる活用を図る



13

将来の展望

- 生涯学習の需要増加傾向を受け
望まれる講座の開設と機会の提供
平成20年7月発表の内閣府の『生涯教育に関する世論調査』でも「今後してみたい」という答えは3年前(前回調査)よりもさらに6.5アップして70.5%
- 科目群、系のスクラップ&ビルド
需要が見込まれるカテゴリーの短期プログラムを試行し、カリキュラムの加除見直しを行う。
- 地域文化研究の拠点形成（キャンパス開放）



14

（プレゼンテーション資料：河内久美子）

Moodle を活用した e-learning の紹介

R・W・カニンガム



Moodle を活用した e-learning の紹介

Moodle ムードル

(Modular Object Oriented Dynamic Learning Environment)

Outline of Contents

- | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. Worldwide Moodle Usage
世界でのムードル使用度</p> <p>2. What Moodle is
ムードルとは何?</p> <p>3. What Moodle is Not
ムードルはこれらではない</p> <p>4. How Moodle Works
ムードルはどうやって動く?</p> <p>4a. General Concept
一般概念</p> <p>4b. A Typical Moodle Site
一般のムードルサイトの仕組み</p> <p>4c. Main Page
メインページ</p> <p>4d. User Accounts
ユーザアカウント</p> <p>4e. Courses
コース</p> <p>5. Some things you can do with a Moodle course
ムードルコースを利用して、いくつかの出来ること</p> <p>5a. Deliver Content Made by Teachers
教育者が創造するコンテンツを配信する</p> <p>5b. Encourage Creation of Content as a Class
受講者がコンテンツを創造することを励ます</p> <p>5c. Assign Tasks
受講者に課題を与える</p> <p>5d. Provide Feedback to Students
教師の有意義な反応を受講者に示す
(受講者にフィードバックする)</p> <p>5e. Gather feedback from Students
受講者の意見 [反応・反響] を常に集められる</p> <p>5f. Foster Inter-Class Communication
受講者間のコミュニケーションを促</p> | <p>進する</p> <p>5g. Track Student Performance and Activity
受講者の学業成績と「コース活動」を追跡調査する</p> <p>6. Many Possible Ways to use/create Moodle Courses
様々なムードルコースの作り方・使い方</p> <p>6a. for Distance Learning - 100% online
通信教育や遠隔地学習: 100% パソコンのみ</p> <p>6b. to Supplement Face-to-face Learning
対面授業を補完・補強する</p> <p>6c. for Community Building
コミュニティー構築</p> <p>7. How I currently use Moodle to teach at KGC
現在、金沢学院短期大学で、私のムードルの使い方</p> <p>7a. Supplement Face-to-face Learning: A Hybrid approach
対面授業を補完・補強するハイブリッド手法</p> <p>7b. Facilitated Community with Graded, Student Generated Content and Online Assignments
ネットワーク上で互いに意思疎通をする事と評価された受講者が創造したコンテンツとオンライン課題。</p> <p>8. 背景 (出典: MoodleDocs)</p> <p>9. 哲学 (出典: MoodleDocs)</p> <p>9a. 構成主義</p> <p>9b. 構築主義</p> <p>9c. 社会的構成主義</p> <p>9d. 関連認識と分離認識</p> <p>9e. 結論</p> <p>10. Reference</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

1. Worldwide Moodle Usage (世界でのムードル使用度)

- Currently there are 49,884 sites from 206 countries*
現在、206 ヶ国でムードルサイトは 49,884 件
- There are 597 sites in Japan*
日本国内でムードルサイトは 597 件
- Moodle has been translated into 78 languages*
ムードルは 78 ヶ国語に訳されている
*(<http://moodle.org/stats/>)より

2. What Moodle is (ムードルとは何?)

- Web-based E-Learning Software that runs on a server, designed to:
ウェブ上で使うことの出来る e ラーニングソフトウェア。目的は：
 - Deliver Educational Software and Content
教育用ソフトウェアとコンテンツを配信する
 - Create and Develop Educational Software and Content
教育用ソフトウェアとコンテンツを創造・開発する
 - Help build and foster strong learning community
学習コミュニティを構築・促進する
 - Build shared experiences
共有経験を構築する
 - Create things together for others to view and use
皆と一緒にあって、他人が視察・利用出来るものを創造する

3. What Moodle is Not (ムードルはこれらではない)

- Courseware by itself (単品だけで教育用ソフトウェア)
- A Textbook or other pre-made content (教科書や前もって作られたコンテンツ)
- Difficult to use (使いにくいもの)

4. How Moodle Works (ムードルはどうやって動く?)

4a. General Concept (一般概念)

- A Moodle Site runs on a server and keeps information in a database
ムードルサイトはウェブサーバー上で働いて、情報をデータベースに保存する
- A Moodle Site is accessed with a Web Browser connected to the Internet
ウェブブラウザでインターネット経由、ムードルのウェブサイトアクセスする

4b. A Typical Moodle Site (一般のムードルサイトの仕組み)

- Main Page (メインページ)
- User Accounts (ユーザアカウント)
- Courses (コース)

4c. Main Page (メインページ)

- Title (タイトル)
- Site Overview (サイト概説)
- Log-in section (ログイン部)
- Course List (コース一覧)

4d. User Accounts (ユーザアカウント)

- People who have access to the site are called Users
アクセス許可を持つ者はユーザと呼ばれる
- Each user has an account with a username, password, profile, etc
各ユーザがユーザ名とパスワードとプロフィールなどを含むアカウントを持つ
- There are different "roles" to control access permission
パーミッション(アクセス許可)を管理するためにロール(役割)がある
 - Administrators : Site Management
管理者 : サイト管理
 - Teachers : Course management
教師 : コース管理
 - Students : Users who appear in the gradebook (cannot edit sites or courses)
受講者 : 評価表に表示されるユーザ (コースやサイト編集はできない)
- User Roles are defined for each course
コースごとにロール(役割)を設定する。

4e. Courses (コース)

- Course access can be restricted by an enrollment key
コース登録キーを使うことで、部外者にコースを利用させなくすることが出来る。
- Students can be placed into groups within a course
コース内で受講者をグループ分けすることが出来る。
- Courses can be in different formats. Here are three examples.
コースフォーマットは複数ある。ここに 3 種類の例を挙げる。
 - Topic Format : トピックフォーマット (検定対策など)
The course is organized by topics : コースコンテンツをトピック (項目) で分ける
 - Weekly Format : ウィークリーフォーマット (学校の学期など)
The course is organized by weeks : コースコンテンツを週でわかる
 - Social Format : ソーシャルフォーマット (掲示板、コミュニティなど)
This format is oriented around one main forum, the Social forum, which appears on the course home page. It is useful for situations that are more free-form. They may not even be courses. For example, it could be used as a departmental notice board.
コースのメインページに表示される 1 つのメインフォーラム、ソーシャルフォーラムを中心として構成される。コースをより自由に構成したい場合に便利。ソーシャルフォーマットは、通常のコースとも異なる。例えば、学科のお知らせボードのような使い方が出来る。
- Content delivery is usually through various Course Activities
普段、「コース活動」を通してコンテンツを配信する。

- ・ Forums (フォーラム)
- ・ Resources (資料)
- ・ Assignments (課題)
- ・ Quizzes (小テスト)
- ・ Choices (投票)
- ・ Chats (チャット)
- ・ Glossaries (用語集)
- ・ Surveys (調査)
- ・ etc. (その他)

5. Some things you can do with a Moodle course ムードルコースを利用して、いくつかの出来ること

5a. Deliver Content Made by Teachers

教育者が創造するコンテンツを配信する

- ・ Content created within Moodle
ムードル内作成コンテンツ「コース活動」
 - ・ Web pages (ウェブページ)
 - ・ Lessons (レッスン)
 - ・ Quizzes (小テスト)
 - ・ Many others (その他)
- ・ Content created using external software
他のソフトで作成するコンテンツ
 - ・ Data Files (for download)
データファイル (ダウンロード配布)
Word, Excel, PowerPoint, Photoshop or any digital data.
ワード、エクセル、パワーポイント、フォトショップ、パソコンで作れるなら何でも配布できる。
 - ・ Interactive Learning Tasks
対話式課題やゲームなど

HotPot (Hot Potatoes)など (Fig.1、 Fig.2): HotPot では、教師が Moodle 経由で Hot Potatoes クイズ (対話式課題を作成するソフト : 無料でダウンロードできる <http://web.uvic.ca/hrd/halfbaked/>) を管理することが出来る。教師のク



Fig.1 HotPot (Hot Potatoes)

ンピュータでクイズを作成し、Moodle のコースにアップロードする。受講者がクイズを受験した後、個々の問題がどのように答えられたのか等、評点における統計的な傾向を表示するいくつかのレポートを利用することが出来る。

- Audio/Video/etc. (for online playback)
オーディオ・ビデオなど（ネット上再生）
MP3, Aiff, Wav, Flash, Quicktime など
- Links to other web sites
他のウェブサイトへのリンク
reference material in almost any form
参考資料、引例、出典、地図、YouTube の動画など

5b. Encourage Creation of Content as a Class

受講者がコンテンツを創造することを励ます

- Wiki (ウィキ)
情報の集積に便利なウェブ・プログラムの形態。受講者が手軽に内容を追加・編集でき、編集過程の全バージョンが保存される。代表例は Wikipedia。
- Glossaries (用語集) Fig.3
用語集では参加者が辞書のような定義リストを作成および管理することが出来る。登録データを、様々なフォーマットで検索または閲覧することが出来る。
- Databases (データベース)
データベースでは、教師および受講者のあらゆるトピックに関するレコード（記録）エントリ（記入）のバンク（収集・保管）を構築、表示および検索することが出来る。これらのエントリのフォーマットおよび構造には、イメージ、ファイル、URL、数値およびテキスト等、ほとんど制限がない。



Fig.2 HotPot (Hot Potatoes)



Fig.3 Glossaries (用語集)

5c. Assign Tasks

受講者に課題を与える

- Online text (オンラインテキスト) Fig.4

Written assignment completed and submitted in Moodle
 ムードル内で文書を書いて、提出する



Fig.4 Online text (オンラインテキスト)

- Upload a File or Files (ファイルのアップロード)

Any file, in any format can be submitted with this assignment.

あらゆる種類のデジタルコンテンツ作成を求め、それをサーバにアップロードさせる。

- Offline Activity (オフライン活動) Fig.5

Leaving the computer aside: Anything that can be accomplished by the student and assessed by the teacher.

パソコン抜きで評価出来る作業 (手書きのレポート、発表、作品、ノート、マナーや態度、その他)



Fig.5 Offline Activity (オフライン活動)

5d. Provide Feedback to Students

教師の有意義な反応を受講者に示す。(受講者にフィードバックする)

- Each assignment has a space for written teacher feedback (Fig.6)
各種の課題の評価画面には教師のフィードバックを記入出来る。
- Students can have access to their feedback and grades at all times (Fig.6)
受講者はいつでも、教師からのフィードバックや評定を見ることが出来る。

名/姓	評点	コメント	最終更新日時 (Students) ↑
😊 [Student Name]	93/100	Nice job!	Are you ... 2009年 5月 7日(木曜日) 19:22
😊 [Student Name]	100/100	Excellent!	are you ... 2009年 5月 7日(木曜日) 10:49
😊 [Student Name]	86/100	Try again please.	Are you ... 2009年 5月 7日(木曜日) 10:49
😊 [Student Name]	10/100	Try again please.	Are you ... 2009年 5月 7日(木曜日) 10:49
😊 [Student Name]	95/100	Almost perfect!	Are you a ... 2009年 5月 7日(木曜日) 10:48
😊 [Student Name]	評点なし		Are you ... 2009年 5月 7日(木曜日) 10:48
😊 [Student Name]	評点なし		Are you ... 2009年 5月 7日(木曜日) 10:47
😊 [Student Name]	評点なし		Are you ... 2009年 5月 7日(木曜日) 10:47
😊 [Student Name]	評点なし		Are you ... 2009年 5月 7日(木曜日) 10:46
😊 [Student Name]	評点なし		Do you live ... 2009年 5月 7日(木曜日) 10:43
😊 [Student Name]	評点なし		Are you ... 2009年 5月 7日(木曜日)

Fig.6 フィードバック

5e. Gather feedback from Students

受講者の意見 [反応・反響] を常に集められる

- Choice (投票)
教師が質問および質問に対する複数の選択肢を定義する。これはトピックに対する考えを刺激するためや、コースの方向付けを行うために投票したり、リサーチコンセン
トを集める場合に便利。
- Survey (調査)
調査という「コース活動」はオンライン学習環境における評価および刺激に関して有益であると検証された多くの調査手段を提供する。自身の授業に関して学ぶことや、指導に反映させる手助けとするため、教師は受講者からデータを収集する目的で使用
できる。
- Feedback (フィードバック)
フィードバックでは、受講者に対して独自調査を行うことができる。

5f. Foster Inter-Class Communication

受講者間のコミュニケーションを促進する

- "teacher-student," "student-teacher" and "student-student" idea exchange

「教師と受講者間」と「受講者と教師間」と「受講者同士」の意思疎通

- Forums (フォーラム) Fig.7

この「コース活動」は最も重要な活動 - ほとんどの議論がここで行われる。フォーラムは異なる形に作成すること、それぞれの投稿に対して相互評価することが出来る。投稿は様々なフォーマットで閲覧することができ、ファイルを添付することも出来る。フォーラムをメール購読することで、参加者は新しい投稿内容をメールで受信することが出来る。教師は、メール購読を全員対して強制することも出来る。

- Chats (チャット) リアルタイム

チャットでは、参加者がウェブを通してリアルタイムに同時ディスカッションを行うことが出来る。これは、お互いの異なる理解を得ること、およびトピックを議論することに役立つ。チャットルームの利用は、非同期のフォーラムと全く異なる。チャットには、チャットの管理およびディスカッションをレビューするための多くの機能がある。

- Blogs (ブログ)

受講者・教師が日記を書いて他のユーザは見る事が出来る。



Fig.7 Forums (フォーラム)

5g. Track Student Performance and Activity

受講者の学業成績と「コース活動」を追跡調査する (Fig.8)

- Catch problem students early
問題のある受講者を早めに見つけられる。
- Give individual help tailored to each student's needs
受講者一人一人のニーズに合わせる個別指導を行える。
- Take attendance
出席をとる。
- Keep a detailed gradebook
詳細な評定表を管理出来る。
 - Grades can be viewed by users (ユーザが評定をみれる)
 - Students can only view their own grades (受講者は自分の評定しか見れない)
 - Teachers view all the grades (教師：評定者は全ての評定を見れる)
- Continually monitor student access to anything and everything
「コース活動」の全てを経過観察出来る。
 - Monitor Student Progress over time
受講者の発達を経過観察出来る。
 - Access information about every course activity is fully logged and can be easily viewed by the teacher.
「コース活動」の全てのアクセス情報が記録され、教師が簡単に見ることが出来る。
 - Certain course activities can be set to automatically notify students and teachers via email.
「コース活動」によって、それらの成り行きや結果を教師および受講者に自動的に Eメールで報告することが出来る。

名 / 姓	Followup 1: The Tech Fair	Followup 2: Meeting	Unit 1 Key Words	Social Expressions	P01c Expressions	P02 2b Sentence Stress	P02 3b Possessive Adjectives	P02 5a Focus on Grammar	P03 5b Complete the ...	P04 Reading (Real Talk)
黒川	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
Watanabe	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
Ayuda	10.00	10.00	9.80	0.00	10.00	6.60	1.20	0.00	4.90	-
Maeda	10.00	9.40	9.90	10.00	10.00	8.30	7.50	9.60	8.10	10.00
Kawano	10.00	10.00	9.90	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
Ito	10.00	10.00	9.20	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
Myo	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
Miyazaki	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
Tsuji	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
Sato	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	9.40	10.00	10.00	9.80	10.00
Iyama	10.00	10.00	9.90	10.00	10.00	9.40	10.00	10.00	9.50	10.00
Ayuda	10.00	10.00	9.80	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
Maeda	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
Ayuda	10.00	10.00	9.80	10.00	10.00	9.40	10.00	10.00	10.00	10.00

Fig.8 受講者の学業成績と「コース活動」を追跡調査

- New forum postings
新しいフォーラムの投稿など
- Teacher Feedback notification to students
受講者に教師から新しいフィードバックがあることを知らせる
- Assignment Submission alerts to teachers
教師に受講者が提出したことを知らせる
- その他

6. Many Possible Ways to use/create Moodle Courses 様々なムードルコースの作り方・使い方

6a. for Distance Learning : 100% online

通信教育や遠隔地学習：100%パソコンのみ

- 社会人向け教育など
- 金沢検定対策コースなど
- 高齢者向け教育など
- 学内にある授業に直接関係ない内容など
- その他

6b. to Supplement Face-to-face Learning

対面授業を補完・補強する

- Separate Approach (対面授業と完全に区別する手法)
 - パソコン室で授業は行わない
 - 講義を支援するために
 - 受講者の復習道具としてなど
 - 欠席した受講者への配布物など
- Hybrid Approach (対面授業とのハイブリッド手法) 両方を適宜使う
 - パソコン室で授業を行う
 - IT 関係やパソコン関係の科目
 - LL 教室として利用
 - 教師の説明や受講者の発表もあり、パソコンだけで授業しない。
 - 受講者の復習道具としてなど
 - 欠席した受講者への配布物など

6c. for Community Building

コミュニティー構築

- to provide online Communication tools only (SNS)
ネットワーク上で互いに意思疎通をする道具としてのみ利用 (ソーシャルネットワーク)
 - 学科の掲示板として
 - 担任の先生と学生の連絡・配布物・報告として
- Facilitated Community with graded content
ネットワーク上で互いに意思疎通をする道具と評価された課題や「コース活動」

- ・ プレゼミ・海外研修・卒業研究のサポートとして
- ・ グループ学習の多い科目など
- ・ その他
- ・ その他にも沢山ある。

7. How I currently use Moodle to teach at KGC

現在、金沢学院短期大学で、私のムードルの使い方

7a. Supplement Face-to-face Learning: A Hybrid approach

対面授業を補完・補強するハイブリッド手法

- ・ **Courses** : **Basic English, English Communication III-IV**
科目 : **基礎英語、イングリッシュコミュニケーション** -
 - ・ Online (オンライン)
 - ・ Original courseware (自分で開発した教材)
 - ・ hot potatoes exercises (ホット・ポテトで作成した課題)
 - ・ Audio (音声)
 - ・ Animation (アニメ動画)
 - ・ Student generated resources (受講者達で作る資料)
 - ・ Glossaries (用語集)
 - ・ Forums (フォーラム)
 - ・ Online Text (オンラインテキスト)
 - ・ Written material for presentations (発表の準備になる文書)
 - ・ Face-to-face Learning (対面授業)
 - ・ In Class explanations (説明や個別指導)
 - ・ Offline speaking assignments (発表)
- ・ **Course** : **English Communication I**
科目 : **イングリッシュコミュニケーション**
 - ・ Face-to-face Learning (対面授業)
 - ・ Short in class lectures and explanations (授業中の短い講義・説明)
 - ・ Personal / individual instruction as needed (必要性に応じて個別指導)
 - ・ Offline speaking assignments (発表)
 - ・ Online Activities adapted from the textbook (教科書から対話式課題に適合したオンライン「コース活動」)
 - ・ listening activities : hot potatoes (リスニングの課題: ホット・ポテト)
 - ・ vocabulary puzzles : hot potatoes (語彙のパズル: ホット・ポテト)
 - ・ games : hot potatoes (ゲーム: ホット・ポテト)
 - ・ online written assignments (オンラインテキストの課題)
 - ・ online quizzes and tests (オンラインで行う小テスト)

7b. Facilitated Community with Graded, Student Generated Content and Online Assignments

ネットワーク上で互いに意思疎通をする事と評価された受講者が創造したコンテンツとオンライン課題。

- **Course : Internet English**

科目 : インターネットイングリッシュ -

- Face to Face Learning (対面授業)
 - Explanation and Examples (説明と実例)
- Online (オンライン)
 - online text assignments (オンラインテキストの課題)
 - file upload assignments (ファイルのアップロードの課題)
 - Community Generated resources (コミュニティで創造する資料)
 - glossaries (用語集)
 - forums (フォーラム)
 - Wiki (ウィキ)
 - blogs (ブログ)

8. 背景 (出典 : MoodleDocs)

(<http://docs.moodle.org/ja/背景>) より

Moodle は日々発達している開発進行中のシステムです。開発は現在もプロジェクトリーダーである Martin Dougiamas によって開始されました。

数年の間、私は何とか Moodle に取り組んできました。Moodle への取り組みは、私がカーティン工科大学にウェブマスターおよび WebCT のシステム管理者として勤務していた頃に始まりました。私は、WebCT で少なからずフラストレーションを感じていましたし、痒さで掻き毟りたいような思いに駆られました。他の方法があるのではないかと (Blackboard ではありません)

私はまた学校や小規模の施設 (いくつかは大規模!) でインターネットを効率良く利用したいと考えている人々を知っていました。彼らはテクノロジーと教育学の迷路の中でどこからスタートすれば良いのか分かりませんでした。彼らの教育スキルをオンライン環境に活かすことができ、無料で利用可能な代替りのシステムがあればと、私は常に思っていました。

未だ実現されていないインターネットをベースとした教育の可能性に対する私の強い信念が、教育において修士課程、博士課程の修了およびそれ以前のキャリアである情報工学 (学習と共同作業の本質に関して新たに構築された知識) との融合を可能にしました。特に、私は社会的構成主義の認識論に著しく影響を受けました。社会的構成主義の認識論では、学習を社会活動としてのみ扱うのではなく、他の人が見たり使ったりする人工物 (テキストのような) を活動的に製作する過程で発生する学びにも注意を向けます。

私にとって、このソフトウェアの使いやすさは重要な部分であり、実際に可能な限り直感的に使用できるようにしています。私は、Moodle の継続的な開発および Moodle をオープンかつ無料にすることに對して全力を傾けています。私は、制限の無い教育および力を与えられた授業の重要性を深く信じていますし、私にとって Moodle はこの考え方を實現するための主要な方法なのです。

2002 年 8 月 20 日にバージョン 1.0 が世に送り出されるまで、数多くの初期のプロトタイプが開発され、そして破棄されました。このバージョンは、小規模かつ親密な大学レベルのクラスをターゲットとしていました。また、綿密に分析された、小規模な成人の参加者グループ内におけ

る、協同学習と内省の本質のケーススタディーに関する研究をテーマとしていました。それ以来、新機能を追加しつつ、より良い拡張性およびパフォーマンスを改善した安定したシリーズが新たにリリースされてきました。

Moodle が広まり、コミュニティが成長するにつれ、さらに異なる教育環境にいる様々な方からの情報が寄せられました。例えば、現在 Moodle は大学で使用されるだけでなく、高校、小学校、非営利団体、会社における教師や自宅学習の保護者にも使用されています。増加しつつある世界中のユーザが様々な方法で Moodle に貢献しています。詳細は謝辞をご覧ください。

Moodle プロジェクトの重要な特徴は、<http://www.moodle.org> にあります。このサイトは、情報を提供したり、システム管理者、教師、研究者、教育デザイナー、コース開発者を含む Moodle ユーザの共同作業や議論の場となる中心的な存在です。Moodle のように、このサイトはコミュニティの必要に応じて常に進化していますし、Moodle のように常に無料で利用できます。

2003 年、付加的な有償サポート、管理ホスティング、コンサルティングおよびその他のサービスを提供するために、会社組織 <http://www.moodle.com> が設立されました。

9. 哲学（出典：MoodleDocs）

（<http://docs.moodle.org/ja/哲学>）より

Moodle のデザインおよび開発は「社会的構築主義教授法 - social constructionist pedagogy」に基づいて行われています。この概念を紐解くために、このページでは関連する 4 つの主要な概念に注目して概説します。構成主義、構築主義、社会的構成主義、関連認識と分離認識の 4 つです。

9a. 構成主義

構成主義の考え方は、人間は、それぞれの環境に対して働きかけを行ったり受けたりすることにより、新しい知識を構成する、という視点に立っています。

あなたが、読んだり、見たり、聞いたり、感じたり、触ったりするものすべては、あなたの知識に照らし合わされます。そして、もしそれが、あなたの精神世界に適合する場合は、新たな知識として蓄えられます。もし、広範な環境で上手く使われる場合、知識は強化されます。人間は受動的に情報を吸収する記憶貯蔵庫ではありませんし、知識がちゃんと人間に「伝送」されるためには、何かを読んだり人の話を聞いたりするだけではだめだということです。

9b. 構築主義

学習は、他の人のために何かを構築するという経験をするときが特に効果的であると、構築主義では主張しています。これは、話された文章、インターネット上の投稿から、さらに複雑な絵画、家、ソフトウェアパッケージのような作品であり得ます。

例えば、このページを数回読んだとしても明日になれば忘れてしまうことでしょう。しかし、あなたがこれらの考え方を誰かに自分の言葉で説明しようと試みる場合、またはこれらの概念に関してスライドショーを製作する場合は、あなた自身の考え方に統合された、より良い理解を得ることができるはず です。これが（たとえ後で読むことが無いとしても）人々が講義中にノートを取る理由です。

9c. 社会的構成主義

これは構成主義の考え方を、集団が互いに知識を構成するという社会設定に拡張したもので、様々な物とその意味を共有する小さな文化を、集団が協調して創造するという状況を想定してい

ます。ある人がこのような文化に影響を受けた場合、あらゆるレベルでいかにしてこの文化の一員になれるか、常に学ぶこと になります。

非常に簡単な例は、カップのような物体です。この物体は様々な用途に使用できますが、この形が液体を入れるという「知識」を示唆しています。もっと複雑な例は、オンラインコースです。ソフトウェアツールの「形」のみが、オンラインコースがどのように実施されるのかを表すのではなく、作成されたグループ内の活動およびテキストが全体として、グループ内でどのように振舞うかという形をメンバーに対して示します。

9d. 関連認識と分離認識

この考え方は、ディスカッションにおける各個人のモチベーションを深く探るものです。

- ・ 分離的な行動をする人は、「客観的」であり「事実に基づいて」考え、反対の考え方の穴を見つけることで、自分の考えを守る傾向があります。
- ・ 関連的な行動をする人は、他の人の考え方をもっと感情的に捉え、主観的に受け入れ、聞いたりたずねたりすることで理解する努力をします。
- ・ 建設的な行動をする人とは、両方のアプローチに敏感であり、現在の状況に適切な行動を選択することができます。

一般的に、十分な数の関連的な行動をする人が学習コミュニティに存在する場合、人々を密接にするだけではなく、より深く考えること、および既存の考え方を再考することにおいて、学習に関して非常にパワフルな刺激となります。

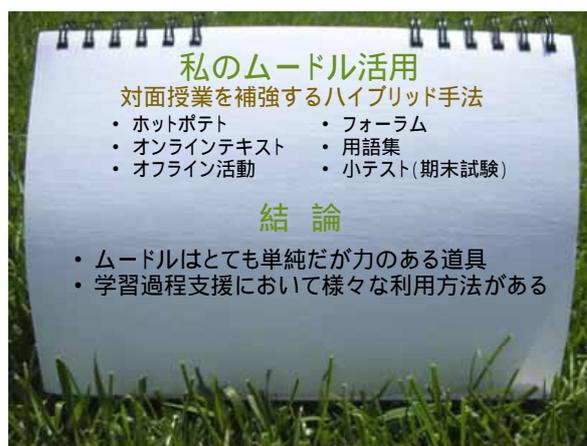
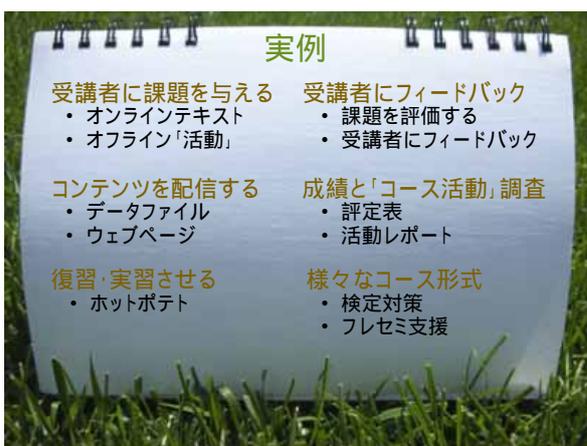
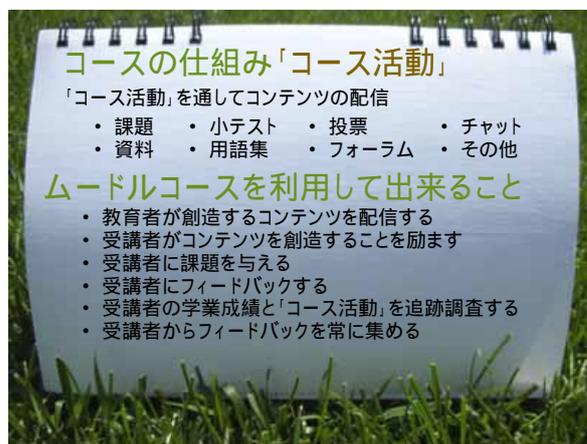
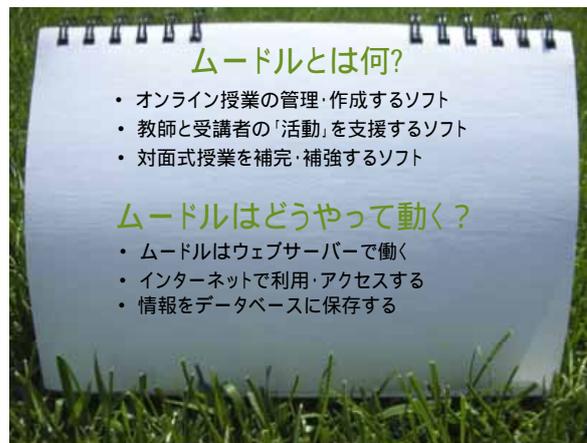
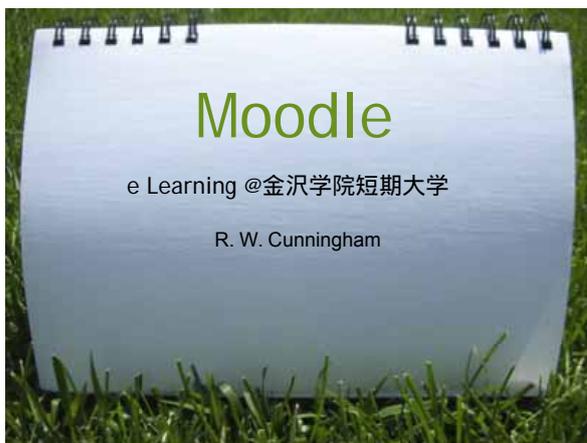
9e. 結論

これらのことを考慮すると、学習者に知って欲しいとあなたが思う情報を単に提供・評価することよりも、学習者に様々な経験をさせることが学習に極めて重要であるとも思えるでしょう。また、それぞれのコース参加者が教師であると共に、学習者にもなり得ることを理解する手助けとなります。「教師」としてのあなたの仕事を、「知識の発信源」から、影響を与える人、クラス文化の模範的な人に変えることができます。また、学生の学習の要望に個人的に取り組み、学生を総合的にクラスの学習ゴールへ導く形で、ディスカッションや活動をモデレートすることができます。

Moodle はこれらの行動スタイルを強制することはありませんが、サポートすることに関して最適なシステムであると設計者は考えています。将来的には、Moodle の技術的基盤が安定性を増すにつれ、教育的活動のサポートをさらに改善することは、Moodle の開発の方向性を決める大きな要素となるでしょう。

10. Reference

- ・ 金沢学院大学・短期大学 e ラーニングサイト <http://call.kanazawa-gu.ac.jp>
- ・ Moodle について (日本語のページ) <http://docs.moodle.org/ja/>
- ・ Moodle について日本語で語り合しましょう <http://moodle.org/course/view.php?id=14>



「本学の教育改善」に関する “ポストイット”を用いたグループ討論

全教職員



グループA：就職支援

1. 参加者

ファシリテーター：國田千恵子

メンバー：粟津原理恵、島崎外志夫、高瀬孝子、野村孝弘、田畑圭介、白山ひろみ

2. 討論の概要

(1) 就職支援に関する問題点の提起とカテゴライズ

短期大学卒業後の就職状況は、高校生が進学先を選択する際の重要なポイントにもなっており、就職先及び就職支援に対する保護者の関心も高まっているように思う。就職支援が今後の学生募集等にも少なからず影響を与える可能性があることから、グループAでは、現在抱えている問題点などを出し合い、関連性や類似性に基づいて討議した。結果、以下の3項目に分類された。

学生の就職意識の向上

- ・ 根本的に「自分が何をしたいのかが分からない」という目標のない学生、意志薄弱な学生が多い。
- ・ 就職活動以前の問題点。学生の就職意識が低い。
- ・ 求人票が届き、企業を紹介しても動かない。
- ・ 就職活動時の情報収集力がない。もしくは、情報を収集しようとししない。

教育の仕方・学生の意識の違い

- ・ 就職支援センターを利用していない学生がいる。
- ・ 会社等への電話のかけ方を知らない学生がいる。
- ・ 就職試験のための準備方法を知らない。
- ・ 就職活動をする時期（開始時期）が遅い。
- ・ 適性試験、一般教養試験、専門試験への準備開始が遅い。
- ・ 履歴書、面接指導をしても、結果の報告がない。
- ・ 各クラス担任に、該当する求人情報が届くようになると良い。
- ・ 就職フェアなどの情報の周知が徹底していないのではないかな。
- ・ 職種とか業種などの意味や区分などを知らない。

インターンシップの取り組みについて

- ・ 2年生の就職方向の問題

就職試験対策の仕方

- ・ 1年後期のプレゼミナールで履歴書指導をしているのに、書けない学生がいる。
- ・ プレゼミが活かされていないと感じることが多々ある。
- ・ 履歴書指導に時間がかかる。
- ・ 就職試験対策講座への受講者が少ない。
- ・ 履歴書・面接指導は誰が行うのか。就職支援センターに全ての学生をお願いしてよいか。
- ・ 面接の受け方を1年後期のプレゼミナールで行っているが、全体で1回だけである。個別の指導はあるのか。2年次の就職試験直前に再度指導をしてもらうことはできないのか。

(2) 就職試験対策の仕方及び学生の就職意識向上についての解決策

上記課題の中から、就職支援対策の仕方と学生の就職意識向上について議論した。結果、次のような解決策が出された。

就職試験対策の仕方

- ・履歴書指導については、フォローアップを教員が積極的に行う。
- ・面接指導に関しては、就職支援センターに協力を求め、学生の受け入れ態勢を整えるなど、今後の検討課題とする。

学生の就職意識の向上

- ・クラスルームに就職関連図書を置く。
- ・学生間でのモチベーションを高めあう工夫をする。
- ・キャリアプランニングのさらなる充実を図る。

3 . 結論

教職員が学生への就職支援の際に感じる問題点には、共通する部分が多かった。解決策の検討にあたっては、ファシリテーターの技量不足に加え、立場の違いなどもあり、十分な討議がなされたとは言い難い状況ではあったが、具体的な解決策が出たことは、評価できる。

今後は立場を越え、また考え方の相違などについても忌憚なく話せる場(機会)になるよう、進め方などを工夫する必要性を感じた。

(1) 就職試験対策

- ・履歴書指導については、指導を依頼された場合には、出来る限り対応する。学生との接触頻度や関係性から、指導を依頼される教職員に偏りが生じ、負担が大きくなる場合もあるだろうが、出来るだけ対処してもらおう。
- ・就職試験直前に希望者だけでも面接指導を受けられるよう、就職指導センターの協力を得ながら、検討する。

(2) 学生の就職意識の向上

- ・プレゼминаールでの模擬面接の後、内定をもらった上級生に直接質問ができるなど、話をする機会を設ける。
- ・キャリアプランニングのさらなる充実については、就職委員長を中心に検討を行う。

< 終わりに >

就職支援センター長及び就職委員長を交えての就職支援に関する討議は、実践可能な解決策を考え、実行へと結びつける上で、効果的であった。

しかしながら、問題点や意見を出し合うには、時間的に余裕がなかったとの意見も聞かれたことから、FD研修会におけるグループ討議の進め方を再検討する必要性を感じた。

全体を通して、教職員からは就職支援に対する率直な感想や意見が出されていたと思うが、今後は支援する側からだけでなく、支援される側(学生)の意見や提案を吸い上げる機会も必要なのではないかと感じた。学生の就職意識の向上には、学生の意識に沿った支援や方法が必要なのではないかと思った。

(國田千恵子)

グループB：授業改善アンケート

1. 参加者

ファシリテーター：松井良雄

メンバー：川村昭子、南友美、岡島厚、渡辺直勇、二階堂修、R.W.カニンガム

2. 討論の概要

(1) 授業改善に向けたフリートーキングを行い、以下の5項目にカテゴライズした。

アンケート実施について

- ・アンケートの目的と活用を、学生に周知徹底しなければならない。
- ・学生はアンケートを真面目に書いていない。
- ・教員がアンケートを取らない方がよい。アンケート回収方法に工夫が必要である。

アンケート項目について

- ・どのような授業だと理解しやすいかを問う。
- ・資格取得の意欲の度合いを記入させる。
- ・予習・復習・課題などは、科目によって異なる。
- ・授業アンケートの内容には問題なし。アンケート結果から短大として何を求めるか。

シラバスについて

- ・シラバスの説明をしているのに学生は正しく答えていない。
- ・教科書や資料があるため、シラバスの活用は少ない。

寝る・私語・授業妨害について

- ・私語をやめさせる方法が知りたい。
- ・授業妨害に対して、学生は「気にならない」と言う？
- ・授業中の「先生の注意」を迷惑がる学生もいる。
- ・寝た子を起こすのか・・・

授業改善や授業参観について

- ・授業方法改善に問題あり。議論しよう。
- ・黒板と白板では、見やすさが違う。
- ・授業参観の実施は！！

(2) 以上のように提起された問題点から、実効のある授業改善を確立するために、「寝る・私語・授業妨害について」および「授業改善や授業参観について」にポイントを絞り、解決策を提案して3項目にグルーピングした。

クラス担任について

- ・生活指導を徹底する。
- ・バイト時間や正しい生活を教える。

授業を良くする（教員から学生に対しての施策）

- ・教員から学生に質問する。
- ・授業の終了後に、理解度を計る小テストを行う。
- ・40 人以下の少人数教育を実施する。
- ・授業時間（90 分）を短くする。
- ・TA システムを導入する。
- ・周りの学生が注意するように促す。

授業参観（教員相互の意見交換）

- ・教員は互いに授業を参観しよう。
- ・1 教員 1 回の授業参観を。
- ・内容・学生の反応を他教員が評価する。
- ・授業撮影を行って自己分析する。
- ・特に確定した参観日は設けずに、各学期 1 回、自由に参観して、10 行のレポート。

3. 結論

（1）フリートーキングおよび提案された解決策の要約は以下である。

学生生活の指導も含めて、クラス担任制度を改善する。

教員の工夫によって、少人数教育、短時間授業、TA 活用の実現に努力する。

教員相互の意見交換も含めて、授業参観を実施する。

（2）この中で、平成 21 年度から即時実現可能な具体的行動として「授業参観」を提起した。授業参観の概要は以下のとおりであるが、詳細は FD 委員会で検討することを要望した。

各学期 1 回 / 1 教員

自由に参観する

10 行程度のレポート

（3）以上により、「本学の授業改善」に関するグループ討論において、グループ B では「授業参観の実施」を総括とした。

（松井良雄）

グループC：授業改善アンケート

1. 参加者

ファシリテーター：河内久美子

メンバー：加藤哲郎、小野澄江、吉田貞介、茶谷徳靖、廣根礼子

2. 討論の概要

(1) テーマ設定

グループCでは、授業評価アンケートの結果の中で評価点の低い項目に着目し、「講義要項(シラバス)の活用」「予習・復習」の2項目について、それぞれが気づくことを書き出し、議論した。

(2) 「講義要項(シラバス)の活用」について

学生がなぜ講義要項を使わないのか。

- ・使い方を知らない。学生は、どのように講義要項を利用してよいのか分かっていない。
- ・「シラバス」という言葉が認識されていない。
- ・活用しなくても学生は不都合が無い。学生にとって問題ではない。
- ・授業選択の資料程度に捉えている(それすら利用しない)

履修登録に際して活用したかどうかを聞くのみなら、利用度は上がるかも

- ・シラバス通り授業が進まない(進められない)
- ・予習(準備)のためには、情報量が少なすぎる。

(次回授業準備の情報が載っていない。今の内容は文部科学省に示すため?)

使わせるためには

- ・毎時間持ってくるように指示する。(ナンセンスかも)
- ・今のスタイルでは学生は活用しにくい。授業資料・方針は別に要る。
必要情報を盛り込むと講義要項のボリュームが膨大になってしまう。
(印刷物として配付したり、持ち歩くのは無理だろう)
授業(前)後に指示を与える
- ・シラバスの目的(学生に何を知らせたいか)に合わせた対応(様式)が必要。
- ・教員に対して活用したかを聞いてみる。

(3) 「予習・復習」について

- ・学生は予習をしない。
(他のスケジュールを入れ、予習・復習の時間をとっていない。一人で予習ができない。)
- ・復習も満足に行わない。せめて復習をして欲しい。
- ・予習・復習に配点してはどうか。

(4) その他

- ・学生に単位を落とす危機感が無い
1年生(1 Semester、2 Semester)はもっと落としても構わないのではないか
- ・当たり前の授業時間(90分)の集中が難しい。

3. 結論

(1) 講義要項の活用

授業評価アンケートの質問項目として

「あなたは講義要項(シラバス)」を活用したか」の設問は、シラバスの形式(掲載情報)を変更しない限り、授業評価アンケートの項目として不適である。

講義要項そのものの工夫

現行の講義要項では学生が毎回の授業で利用するには情報量が少なすぎるため、授業内容の提示にはもっと具体性を持たせ、各担当で工夫が必要である。講義要項への記載だけでなく、その内容を授業の中でアナウンスしたり、「来週の講義要項」のようなものを作成して示す。

(2) 復習方法の工夫

学生に授業の予習を期待するのは難しい。せめて復習し授業成果を高める。

(努力目標として)教師の方から、授業の中で授業内容を総括する「まとめレポート(復習レポート)」のような形式の課題を課し、毎回提出させてはどうか。学生からの授業要望をすくう手段としても利用できる。

(河内久美子)

グループ D：卒業時アンケート

1. 参加者

ファシリテーター：小林淳一

メンバー：平木孝志、萩野有希、西野喜美子、山瀬泰吾、藏角利幸、清水里美

2. 討論の概要

(1) 個人作業による問題点の提起ならびに問題点のカテゴライズ

参加者から提案された問題点を関連性・類似性に基づいて討論し、以下の 4 項目に分類してそれぞれタイトルを付けた。なお、D グループでは参加者の要望により、卒業時アンケートに直接的な関与はないものの、是非とも今回の機会に提案したい課題がある場合はこれを認め、「その他」として分類した。

学生の意識・態度・マナー

- ・教育理念の不徹底が中途半端の学生を卒業させている。
- ・教職員との信頼関係が欠如している学生小集団が存在する。
- ・本学を好きにならない学生。
- ・金沢学院大学と本学における指導方針のズレ。
- ・学生同士の先輩・後輩関係。

アンケート内容・方法の精査・アンケートの信頼性

- ・設問が多い。
- ・授業アンケートとの関連性を考える。
- ・記名/無記名の検討。
- ・教員不在の状況で教員が関与せずに実施するべき。
- ・アンケートの重要性が学生の意識に定着していない。

学内の施設・設備・組織・環境（シラバス・機材）

- ・進学相談会の機能について。
- ・学生の体型に合わない机や椅子の入れ替え。
- ・対話形式が可能な専用教室の必要性。
- ・「学生なんでも相談」の利用方法。
- ・シラバス利用について。

その他

- ・時間を守れない・授業態度が悪い・遅刻や欠席の軽率さ・話の聴き方・言葉遣い

これら 4 項目の改善課題を、重要度・緊急性に基づいてさらに討論し、以下の結論を導出した。すなわち、アンケート結果から把握できる卒業時学生の実態を考慮すると、アンケート内容の議論や学内の教育環境整備などを検討するよりも、在学中にいかに関与を教育育てるかという根幹的な課題を解決することが最重要であるという見解である。

学生の規律意識が向上することによってアンケートに対する姿勢も変わり、より信頼性の高いデータが得られることが期待されるため、「学生の意識・態度・マナー」と「その他」の一部を関連付け、「アンケート結果を考慮した学生の規範意識向上とそのための教育」を、本グループの中心課題として設定した。

なお、「アンケート内容・方法の精査・アンケートの信頼性」と「学内の施設・設備・組織・環境(シラバス・機材)」も重要な問題点であるため、それぞれに優先順位は付けずに中心課題と関連させながら扱うことにした。

(2) 改善したい課題についての対策

次に本グループの中心課題「アンケート結果を考慮した学生の規範意識向上とそのための教育」を、参加者一人ひとりが各々の事情に即して検討し、ポストイットに記入したアイデアを出し合った。改善方略は多岐にわたったが、議論の都合上次の3項目にグルーピングした。

全学的な教職員の情報共有

- ・教育理念の実践的活動の遂行。
- ・入学時から学生の情報交換に努める意識改革。
- ・入試時の基準を統一する。
- ・教員と職員で学生の情報を共有する。
- ・大学短大とともに礼節について考える。

インフォーマルトーク

- ・教職員が少人数でのフリートークをする機会。
- ・自由参加の座談会の場・機会を設ける。
- ・クラスでの自由意見や発表の場を設ける。
- ・教員の研修会を学生に見てもらい熱意を伝えたい。

学生に対する見方の改革

- ・学生個人は悪い子はいない。できればひとまとめで見ないであげたい。
- ・マナーの悪い学生に対して減点方式の導入。
- ・特に態度のひどい学生をピックアップして個別の意識改革を実施する。
- ・教員と学生の交流のため、年一回運動会(スポーツ大会)を開催する。

3. 結論

本グループは、アンケートの細目の検討やデータの吟味よりも、全体的・全学的な課題に関心を寄せる議論となったため、結論も広い視点で教育改革を実践するべきという方向に落ち着いた。特にこれらの課題を本学のみのもので捉えず、金沢学院大学とも積極的な情報交換・協働体制を確立することが必要であるとともに、学園全体の重要課題として取り扱うべきであるという指摘が複数の参加者から出された。限られた時間の中では十分な検討ができたとは言いがたいが、こうした問題意識を背景として導出した具体的な改善案と提案は、以下の2点である。

(1) 教職員自由参加の座談会の推進

日頃から本学ならびに学生に関する情報交換を実施する意識を定着化させるため、教職員が自由に話し合える時間と機会を設定する。従来も各学科の助手室や学生研究室で行われていたことを拡大し、所属や職位の枠を超えて多くの関係者が座談会に参加できる状況を構築する。自分自身の立場や視点では気付けない学生の多様性を同僚の助言で把握し、教職員と学生の信頼関係を向上することを目標とする。

(2) 教育理念「創造」に相応しい短大づくり

金沢学院大学と協働し、全学的な礼節・マナーの指導に努める。これまでも本学FD研修会で繰り返し指摘されてきた学生の礼節・マナーの向上については、キャンパス内で短大生と大学生の区別をするのが困難であり、そのために不徹底な礼節教育にならざるを得ないのが実情であった。また、短大と大学の授業を兼任する教員は、両学生の授業への取り組み姿勢に差異を感じることも少なくないと指摘している。

こうした課題を解決するため、短大と大学が協働し、共通の教育理念「創造」のもとに、いかに学生指導をするのかを議論する機会を設けるべきであると提案する。

4. ファシリテーターより

第2回FD研修会(2007年9月)より実施された“ポストイット”を用いたグループ討論は、今回が2回目であり、前回よりも冒頭から多くの意見が出されて積極的な情報交換ができたという評価できる。参加者の中には事前に課題を準備して提案する教員もあり、本学教職員の情報交換の場として認識され、機能し始めているのではないかと思われた。

しかしその一方で、教職員が一同に会してFD活動について議論する機会が、このような研修会のみで十分かどうかは議論の余地が残る。「教職員自由参加の座談会の推進」の項目で報告したとおり、情報交換の機会を増やしていくことが肝要であろう。もちろん個々人の教育活動や研究活動の充実は重視されるべきであるが、組織全体で短大をより良くしていくという共通意識もまた、大切であると考えます。

今回のグループ討論では、本学の教職員が教育改善に強い意志と関心があることを再認識できるものであった。こうした意識が今後も一層高まっていくことを期待したい。

(小林淳一)

グループE：卒業時アンケート

1. 参加者

ファシリテーター：相良多喜子

メンバー：吉田寛治、種井由佳、山岸政雄、可部野和子、森田由香

2. 討論の概要

(1) 問題点の提起ならびに問題点のカテゴリライズ

参加者から提案されたポストイットの内容を関連性や類似性に基づいてタイトルをつけ、5項目に分類した。

学生の意識・態度・満足度について

- ・卒業時に総合的満足度が得られないのは一番大きな問題点である。学習実態や学生生活を把握し教育改革に結びつけて行きたい。
- ・ライフデザイン総合学科では新しい教育理念「創造」を教育科目に取り入れ、自らデザインした生き方で社会に貢献できる学生を育成している。食物栄養学科では栄養士、管理栄養士として活躍できる人材を目指している。2学科とも絶えず学生に目標をもたすことと学生の関心に応じた指導法を問い続けている。
- ・コミュニケーション能力を在学中に涵養することが、社会へ出る学生にとって必須条件である。本学がプレゼンテーション能力や礼節教育等に重点をおいていることもその証しである。また在学時の学校行事への積極的な参加は社会へ出てからの企画力や実践力の源となり、ひいては卒業時の満足度にもつながることにも注目している。
- ・教職員側も学生の質問に十分なコミュニケーションがとれているのか。
- ・学生の態度は自分の都合で教職員への接し方に度をこすことがある。
- ・学生に主体的で積極的な意識をもたせることが満足度にもつながる。
- ・学生の満足度を知ることにより、教授法の改善にも役立てたい。

プレゼミナールについて

- ・プレゼミナールの名称が平成21年度より変更され、前期フレッシュマンセミナー、後期キャリアプランニングとなるが、2学科とも卒業までに準備すべき内容に共通の理解を持つべく努力中である。
- ・努力の例として、居眠りをする学生をつくらないため、記録をとらせるなど授業の工夫をする。
- ・豊富な内容であるが学生にとっては印象を薄くするとの意見もある。
- ・平成20年度に実施した禅寺での坐禅研修は学生の精神修行になり、教育理念の実践指標にかなっている。

講義要項(シラバス)について

- ・学生はシラバスの意味がわかっていないのではないかと。シラバスの利用の仕方についてフレッシュマンキャンプや学科ゼミで重ねてガイダンスを行っている。

- ・学生がよく読んでいない、活用していないと追求するだけでなく、担当教員もシラバスの説明や活用方法の指導が足りないのではないかと反省の要あり。
- ・短大ホームページにシラバスを掲載して、授業内容を調べる学生の利用率を上げてみるのはいかがでしょうか。積極的に見て活用する学生の意見も聞く。
- ・学生は自己に都合のよい履修態度の正当化が目立ち過ぎる。
- ・シラバスの活用が学生指導につながる。学生に活用させるにはまず、先生方が活用しているのか。必要性を問いかけているのか。
- ・授業に対する学生の理解度を高めるシラバスが必要となる。到達度につながる。
- ・シラバスの成績評価についても授業によって違うため、学生に授業の目的を示し、シラバスの意義を学生と教員の双方が認識することで教育効果が上がる。予習・復習・課題の勉強にも積極的に取り組んでいくのではないかと。

資格・検定取得について

- ・食物栄養学科ではほとんどの学生が栄養士免許取得に満足をしている。
- ・ライフデザイン総合学科ではファッションビジネスと販売能力は役に立っている。
- ・秘書検定取得の学生は言葉使いが身についたと述べている。
- ・ライフデザイン総合学科では色彩検定に挑戦する優秀な学生を育成している。
- ・様々な資格を学生に教授する教員は一生懸命で学生の満足度も高めている。
- ・全短大生を対象に実施している漢字能力検定は、役立つ資格であり、また清鐘台奨学金を目指し勉強意欲がみられる。学生は在学中に取得をしようと励むことが充実した学生生活につながっている。
- ・取得した資格が出来るだけ仕事に結ばれるよう就職先での努力が期待される。

授業改善アンケート、卒業時アンケートを受ける学生の姿勢について

- ・記入方法が煩雑に見えたり思われたりしないようシートのデザインを一考することは出来ないか。
- ・結果のフィードバックはホームページを使えないか。
- ・授業改善アンケートは全科目でなく選択とする。学生は多数科目のアンケートを同時期に集中して実施するため、回答精度が落ち気味となりアンケートの信頼度が得難くなる。
- ・授業改善アンケート、卒業時アンケートの結果を重ね合わせ関連性などを検討する必要がある。

3. 結論

- (1) 今後、シラバスの活用法について教務委員会で議論する。
- (2) アンケートを学生が真面目に回答する方法を工夫する。

<ファシリテーターの感想>

グループEは、教職員が協力して短大の教育機能の向上に取り組んでいこうと言う連帯感が生まれた有意義な討論の場であった。

(相良多喜子)

第5回FD研修会質疑・討論



第5回FD研修会質疑・討論

Moodle を活用した e-learning の紹介

- (1) 岡島：Moodle コンテンツを作るのに、どの程度時間がかかるのか。

カニンガム

5年かけてコンテンツを作った。Moodle を利用すると、授業以外の時に学生が復習しているか分かる。Moodle は検定対策などの教育にも利用できる。

- (2) 小林：学生の成績をオンラインに掲載するにあたってのセキュリティは大丈夫か。

カニンガム

Moodle システムでは、ユーザー名を持っていないとコースに入れず、成績などのデータは教員ユーザーしか見れない。Moodle は多数の教育機関で使用されており、セキュリティに力を入れているので心配ない。

- (3) 小林：オンラインにテキスト(教科書)からそのままコピーして掲載するのはどうか。著作権は大丈夫か。

カニンガム

カニンガム：出版社は、「テキスト(教科書)を買っていますか？その人が見るのであれば大丈夫。」との対応である。Moodle では他の人は見ることは出来ないが、テキスト内容をオンラインに掲示する場合は、念のために出版社に確認した方がよい。

「本学の教育改善」に関する“ポストイット”を用いたグループ討論

- (1) 平木：教育理念「創造」や具体的指針「礼節」はキャンパスガイドにも掲載されている。学生に対して「礼節」を指導していかななくてはいけない。短大の教職員は教育理念の実現に一生懸命に努力している。短大と大学と共に努力してほしい。「礼節」に関しては、先生に対する学生の言葉使いが非常に悪い。

- (2) 野村：就職支援に関しては、後期科目「キャリアプランニング」でサポートする。さらに「キャリアプランニング」の内容を改善して行く。これらは、就職委員会、就職指導部で考えながらやっていく予定である。

- (3) 二階堂：学生の二極化が顕著である。どのような授業をすれば授業改善になるのか。

岡島

各学科が二極化について考えてほしい。学生の成績・能力が二極化しているので、授業改善アンケートや卒業時アンケートの集計結果も二極化している。

- (4) 藏角：二極化、三極化している学生を見ると、人間教育が大切であると言える。優秀な学生でも答えられなかったり、声が出せなかった事例もある。三年間のスパンで教育理念を

推進しなければならない。会社では、謙虚であり、素直に仕事に取り掛かる人は伸びる。社会に出ると、学生は反抗的な態度を変えていく。教育の実践を FD で取り組んで行かななければならない。デザイン系で 2 級に合格したある学生は真面目であった。しかし、トップで入ってきた学生でガムを噛んでいる者もいた。優秀で入ってきた学生は、優秀で出て行ってほしい。大学と短大の先生は、ぜひフリートーキングする場を持っていきたい。

- (5) 平木：遅刻は成績評価のグレー部分である。授業の終わり頃に入ってくる学生や、幽霊のように入ってきて黙って座る学生もいる。遅刻の認識、ペナルティー、色々なパターンがあるので先生方にお聞きしたい。

藏角

遅刻回数に応じて欠席としている。遅刻状況はシラバスの総合評価で有効になる。試験点数が少し悪くても皆出席だと総合評価は良くなるが、試験点数が良くても欠席が多ければ成績が悪くなるようにしている。

粟津原

担当している実習科目では遅刻は少ないが、遅刻回数に応じて欠席としている。

カニンガム

遅刻時間に応じて欠席としている。

河内

担当している科目はレポートの中身でポイントを付けていく成績評価であるが、遅刻回数に応じて欠席としている。遅れてくる学生は申し出るように指導している。

(松井良雄)

閉会の辞

総括

FD 委員長 岡島 厚

第 5 回 FD 研修会には、短大の教職員のほぼ全員の教職員の方々が出席され、3 時間の長時間にわたって短大の教育方法改善について熱心に議論され、多くの有意義な成果を上げることが出来た。

本学では、FD 研修会を毎年前期、後期の学期末に定期的で開催している。特に毎年 3 月の年度末に開催する FD 研修会では、当該年度の FD 活動の総括をし、次年度の活動目標や計画を議論する場として位置づけている。

FD 研修会の前半部では、本学の教育方法改善に関連する事柄から 2 つの話題についてお話いただいた。まず、平成 21 年 4 月から発足する新学科「ライフデザイン総合学科」について、副学長・吉田寛治先生から、その概要をお話いただいた。新学科は、生活全体を幅広くデザイン（企画、立案を含む設計あるいは意匠）にとらえ、いわゆる造形デザインをはじめ、ふるさとの文化、ビジネス活動なども視野に入れ、6 つの系（分野）から構成させた。新学科では、学生はかなり自由度を持って自分らしいマイ・カリキュラムを独自につくることができることを強調された。このような学科改組は、長年の間にわたって本学の教育改善に努力してきた一つの結論として捉えることができる。

次に、ここ数年、R・W・カニンガム先生は、新しい英語教育方法として Moodle のソフトを活用して e-learning による英語授業を実施して大きな教育成果をあげている。Moodle ソフトはインターネット上でそれぞれの授業用の Web ページを作るためのソフトであり、英語教育に限らず、他科目の授業においても適用可能である。そこで、実際の授業における Moodle の実施例を、できるだけ具体的に紹介していただいた。授業形態の類似した英語以外の学科目でも適用可能である。しかし、それに伴う IT 環境の整備が不可欠である。

次に、休憩時間を挟んで後半部では、既に本学 FD 研修会では恒例となった“ポストイット”による教職員全員によるグループ討論を行った。各グループの主な結論は、下記の通りである。

A グループでは、本学就職委員会・野村委員長と就職支援センターの島崎部長に参加いただき、「就職支援」について議論いただいた。

- ・ 現行の就職試験対策講座の在り方
- ・ 就職に対する学生の意識を如何にして高める方法
- ・ 履歴書を書かせる指導方法
- ・ よりよい就職支援・指導システムの構築

などが議論されたが、今後とも、学生の満足度の高い就職支援システムの構築や指導方法の開発に向けて就職委員会を中心に検討することとした。

B グループ、C グループでは、「授業アンケートを中心とした授業改善」について議論いただいた。

- ・ 予習や復習を積極的にさせる工夫はないか。 復習レポート、宿題をだすなどの工夫
- ・ 受講学生数の少人数化、授業時間の短縮化、TA 導入などが提案された。
- ・ シラバスの活用の問題点。
- ・ アンケート結果の学生へのフィードバックをすること。
- ・ 次年度から「授業参観」の試行を提案する。
(案) 次年度から、各教員、年 2 回 1 科目以上を自由に参観する。そして、その感想をレポートにして参観した教員に提出する。

D グループ、E グループでは、「卒業時アンケートを中心として授業改善」について議論いただいた。

- ・ 「卒業生の礼節の徹底」を大学、短大、東高校の金沢学院全体として取組むように今後とも努力する。
- ・ アンケートを誠実に書かせる方法が議論され、アンケートから有意な結論を抽出したいならば、そのやり方にもっと工夫を要する。
- ・ 卒業時アンケートについての内容については、今回は多くは議論されず、継続審議事項となった。
- ・ シラバスの活用法について検討を要する。

以上、ポストイットによる教職員全員によるグループ討論のまとめを箇条書きした。

これら提案された事項は、それぞれ担当の委員会でさらに審議を深め、実行、実施していただければ幸いである。

資料1

平成20年度後期 授業改善のための学生アンケート集計結果

平成20年度後期 授業改善のための学生アンケート集計結果

1. 学生アンケート実施

実施日：平成21年1月14日(水)～2月2日(月)

科目数：98科目

回答数：2301枚

2. アンケート集計処理

短期大学全体	98科目(2301枚)	
生活デザイン学科	57科目(805枚)	<参考>
食物栄養学科	46科目(1575枚)	両学科共通は5科目(79枚)
1年生科目	54科目(1267枚)	
2年生科目	44科目(1034枚)	
教養科目	25科目(411枚)	
専門科目	73科目(1890枚)	

3. 短期大学全体のアンケート集計結果

(1) 評価が良い回答

問1. 先生の声は聞こえましたか。

問4. 教科書・参考書・配付資料などは活用されましたか。

問8. 授業に対する先生の熱意が感じられましたか。

(2) 評価が悪い回答

問12. あなたは授業の「講義要項(シラバス)」を活用しましたか。

問13. あなたは、この授業の勉強(予習・復習・課題など)をしましたか。

(3) 全体傾向

以上の傾向は、これまでのアンケートと同じ結果である。

4. 短期大学全体と両学科の比較

(1) 短期大学全体と両学科の傾向はほぼ同じである。

5. 1・2年生科目、教養科目、専門科目の比較

(1) 全般的に、科目の分類によらず傾向はほぼ同じである。

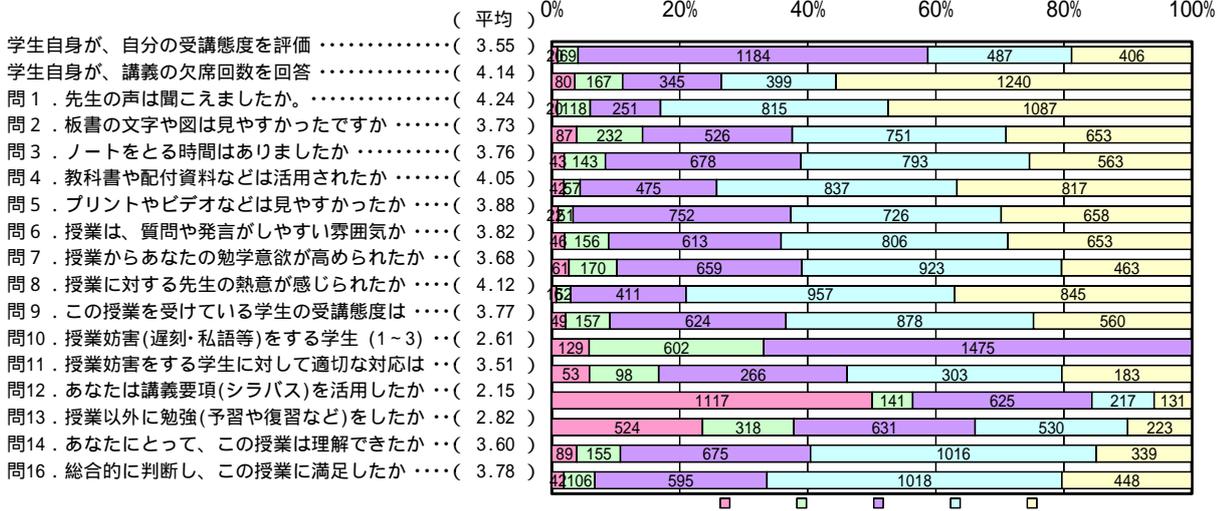
(2) 1年生科目と2年生科目の比較では、1年生の方が僅かに好印象の回答である。

(3) 教養科目と専門科目の比較では、教養科目の方が僅かに好印象の回答である。

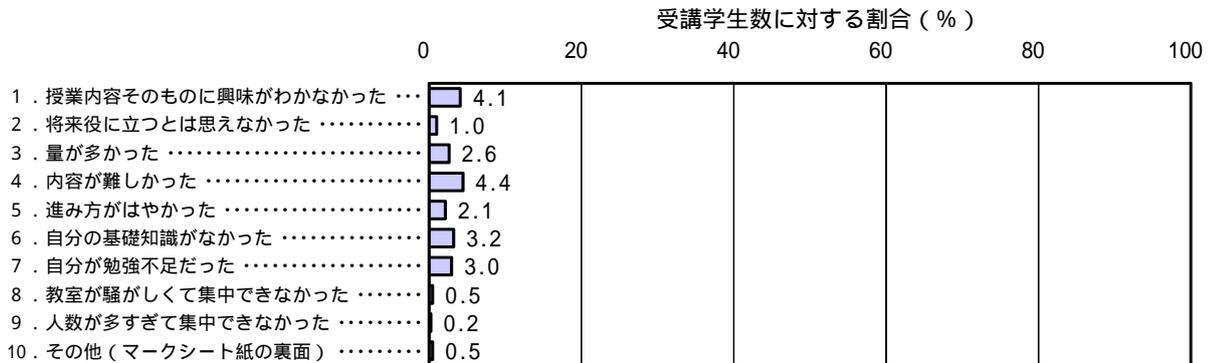
(松井良雄)

短期大学の全科目

アンケート集計結果 (数値は票数)

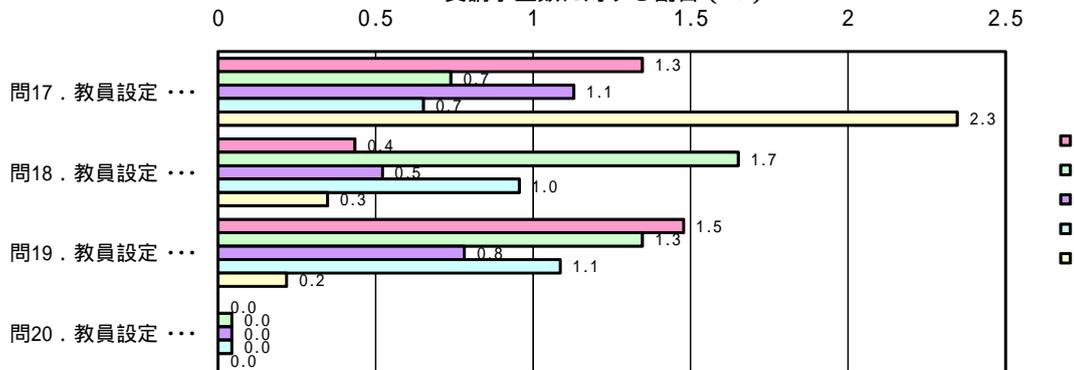


問15. 授業が理解できなかった理由 (問14で の場合、複数回答可)



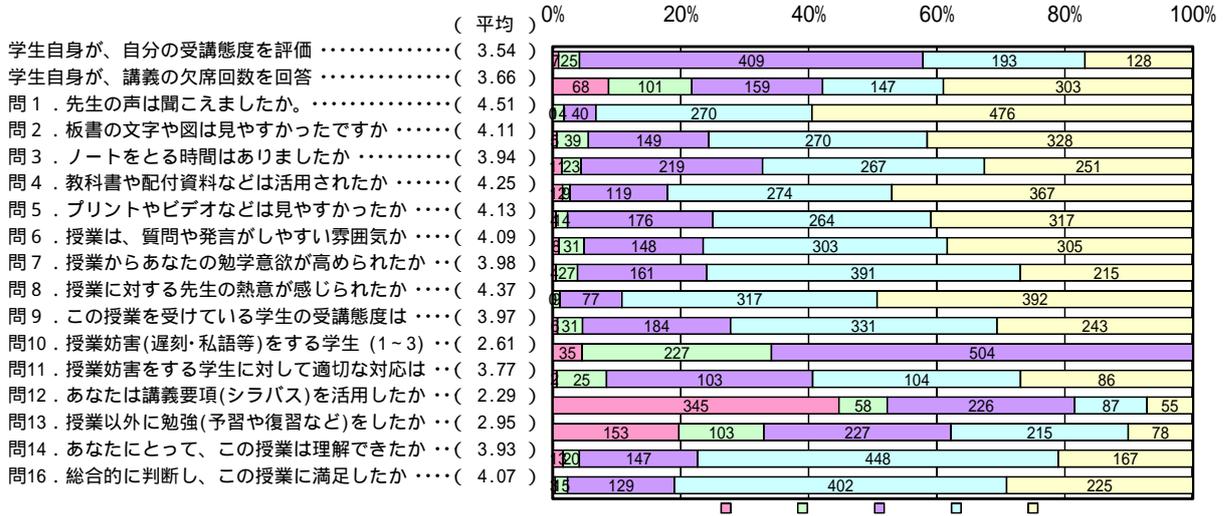
担当教員 自由設定設問

受講学生数に対する割合 (%)

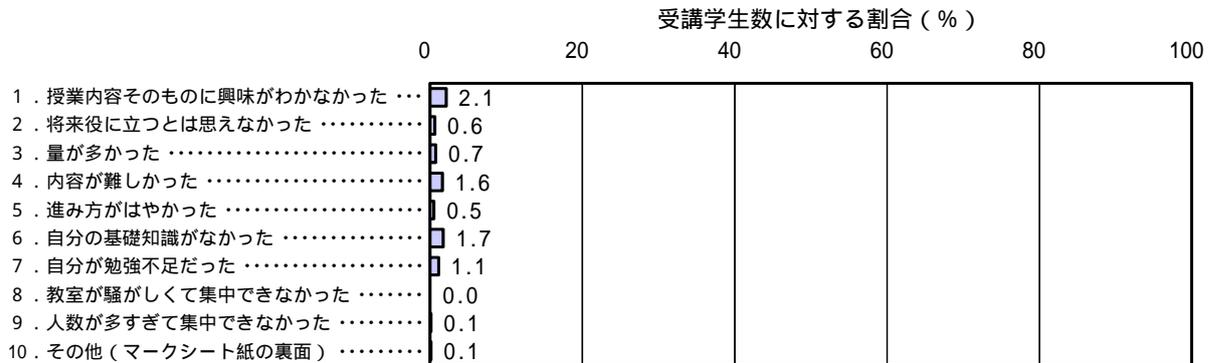


生活デザイン学科

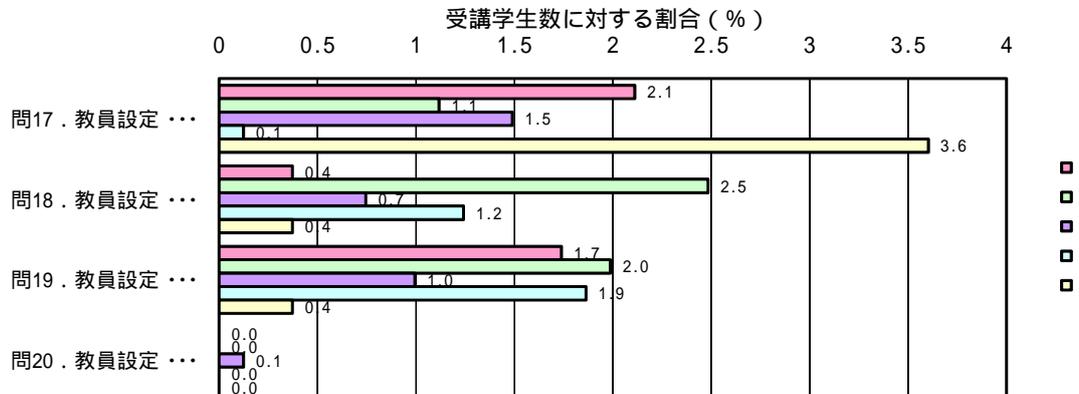
アンケート集計結果(数値は票数)



問15. 授業が理解できなかった理由(問14で の場合、複数回答可)

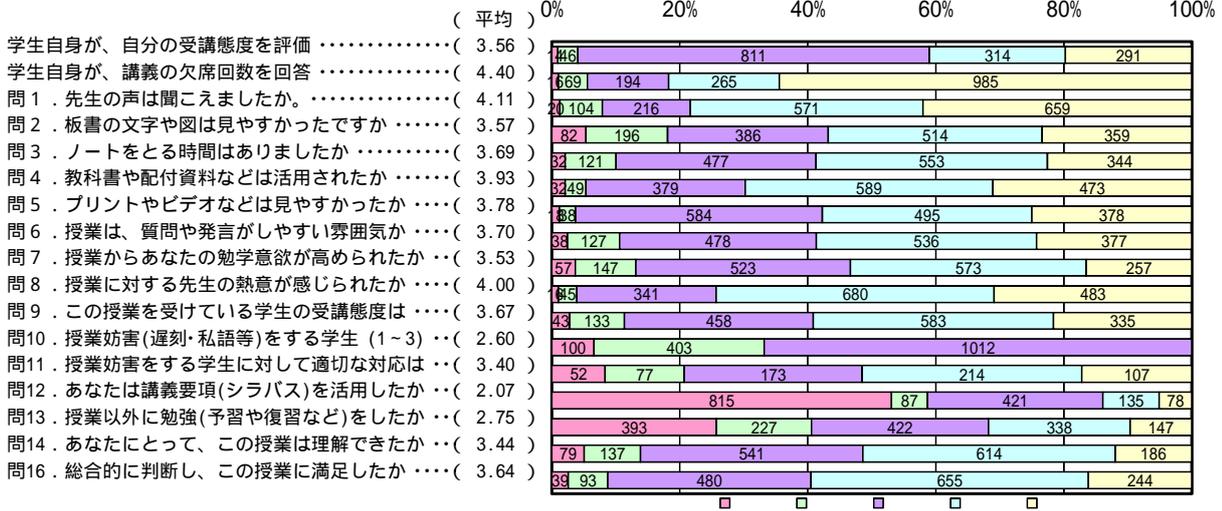


担当教員 自由設定設問

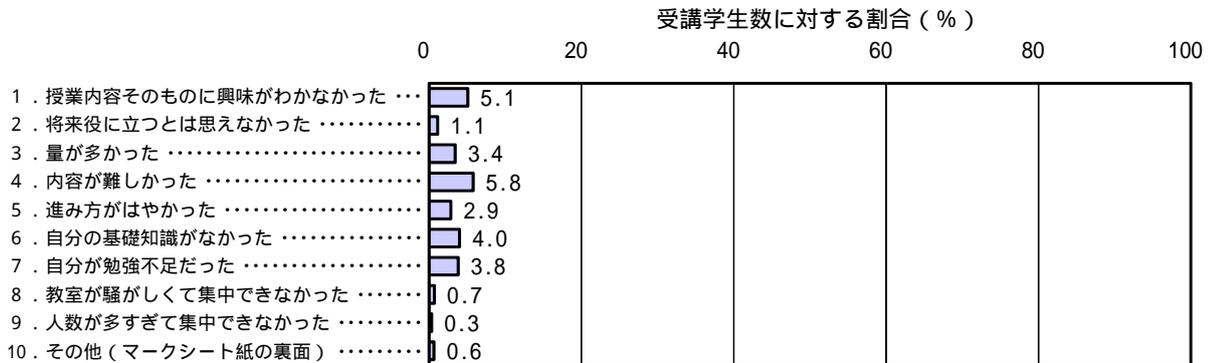


食物栄養学科

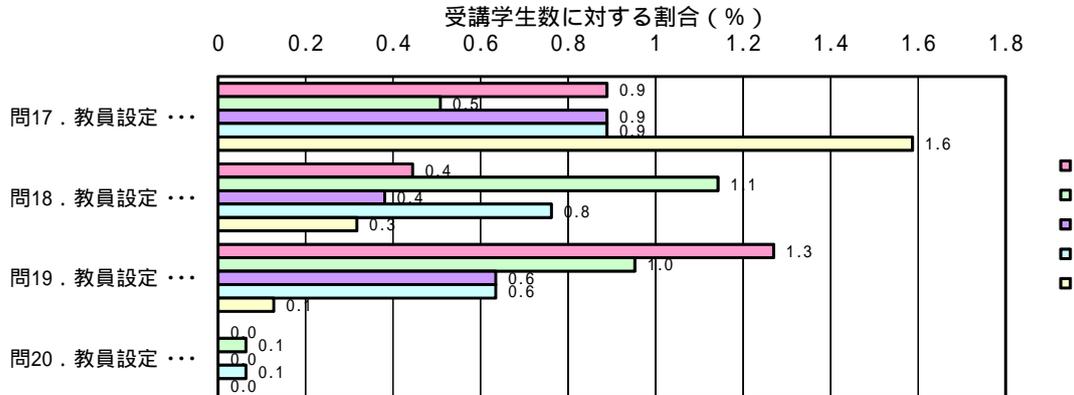
アンケート集計結果 (数値は票数)



問15.授業が理解できなかった理由(問14で の場合、複数回答可)

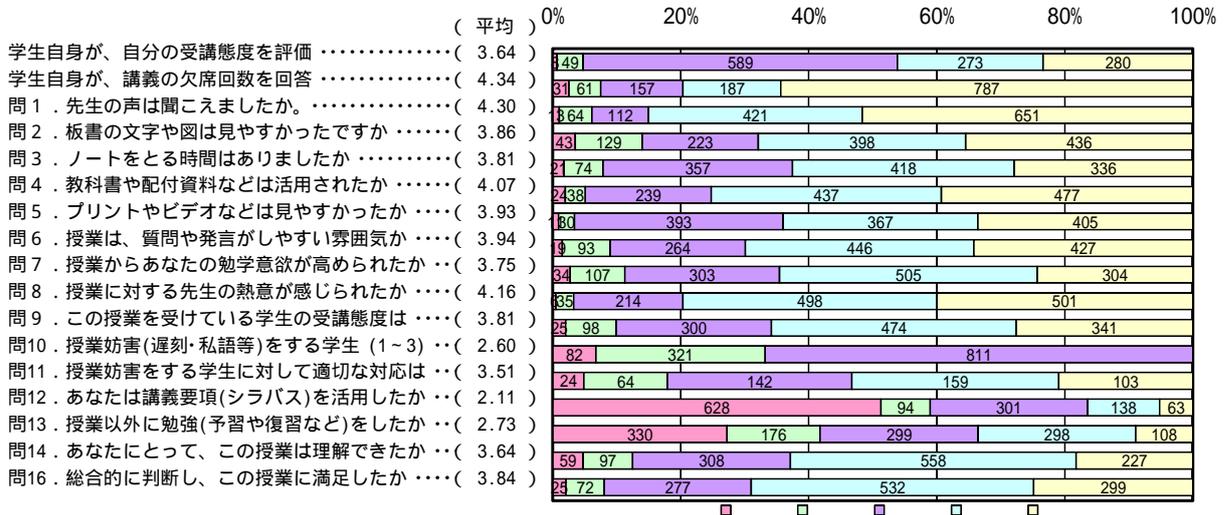


担当教員 自由設定設問

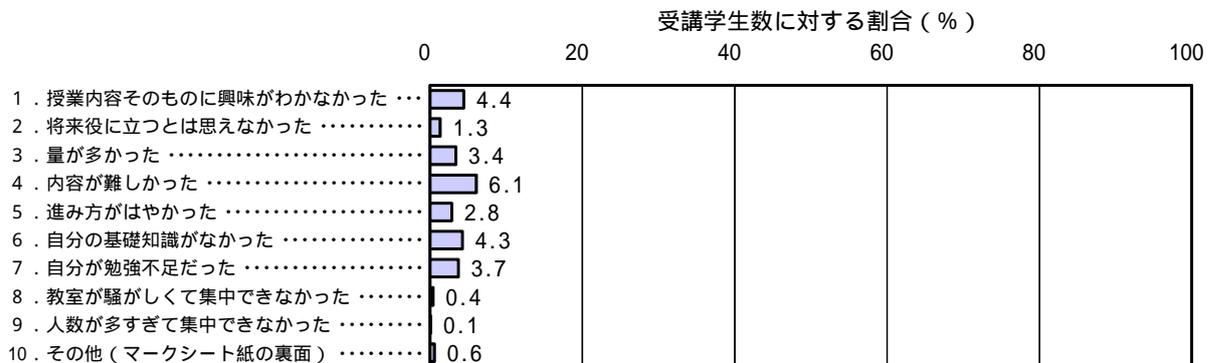


1 年生科目

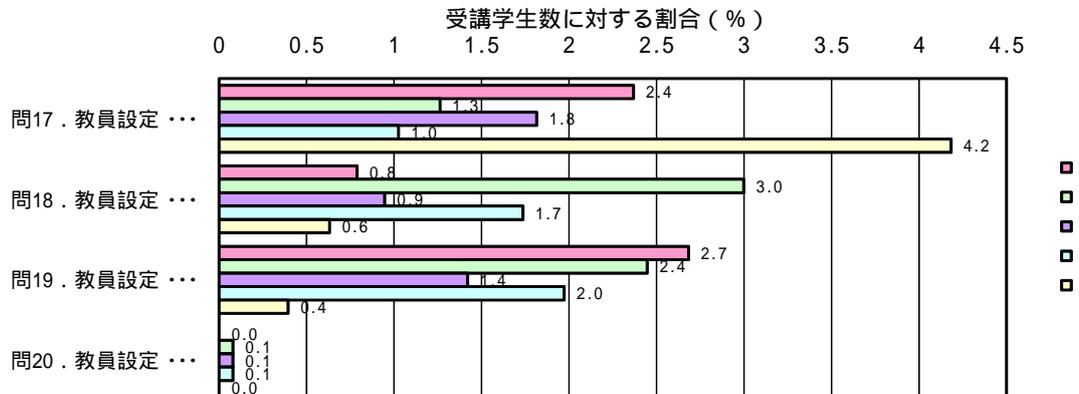
アンケート集計結果 (数値は票数)



問15. 授業が理解できなかった理由 (問14で の場合、複数回答可)

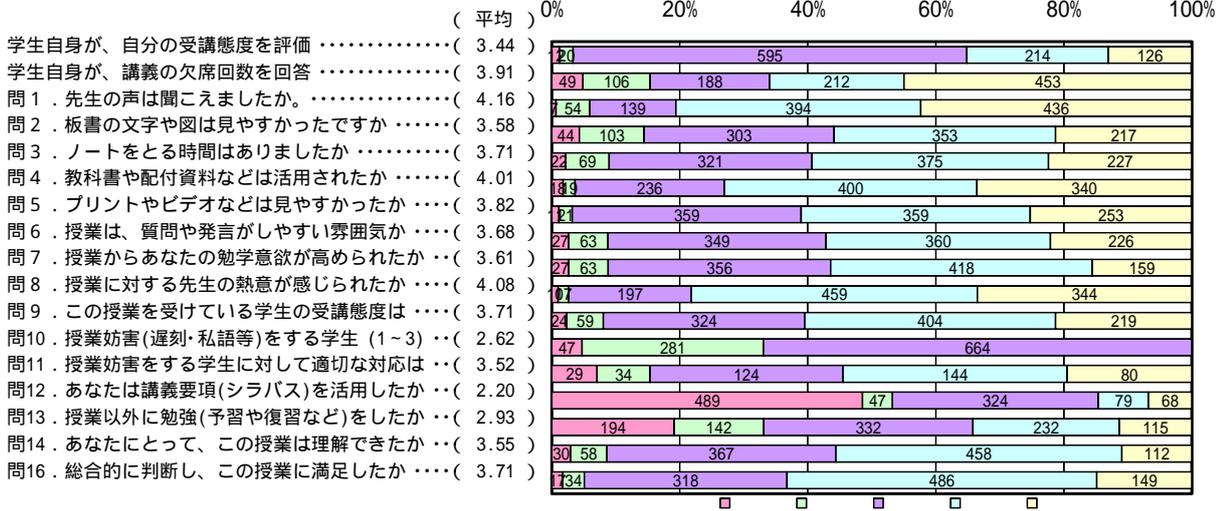


担当教員 自由設定設問

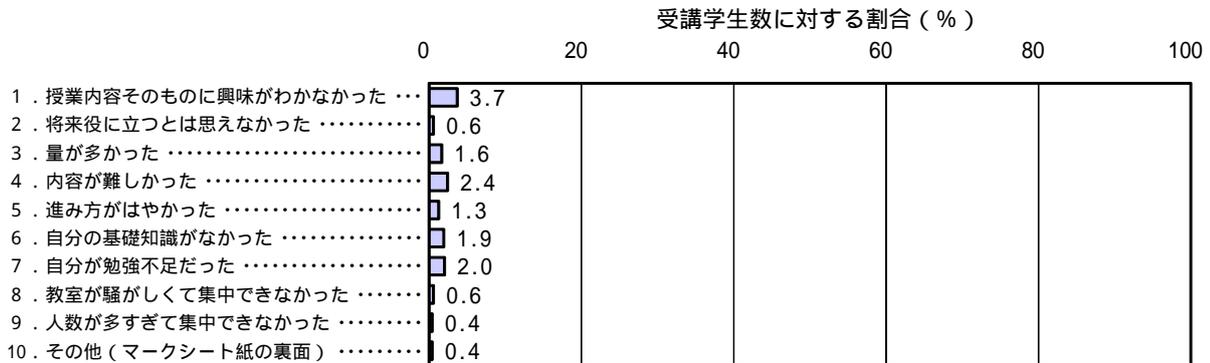


2年生科目

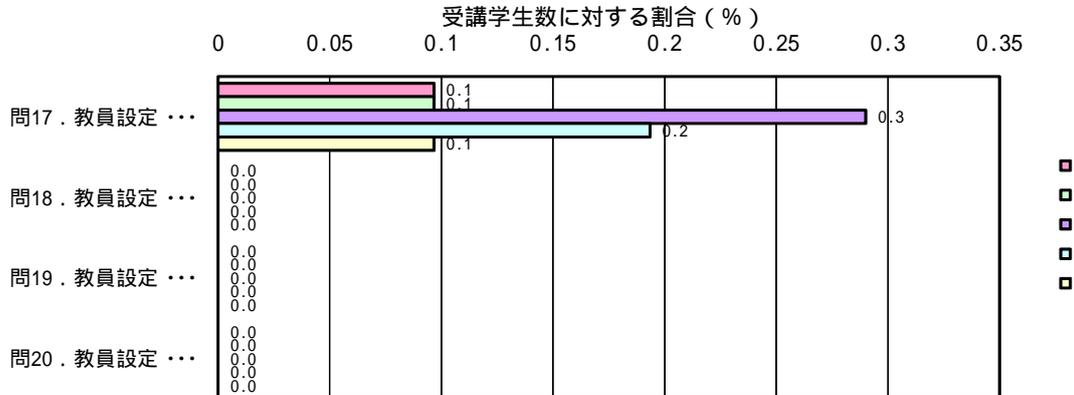
アンケート集計結果 (数値は票数)



問15.授業が理解できなかった理由 (問14で の場合、複数回答可)

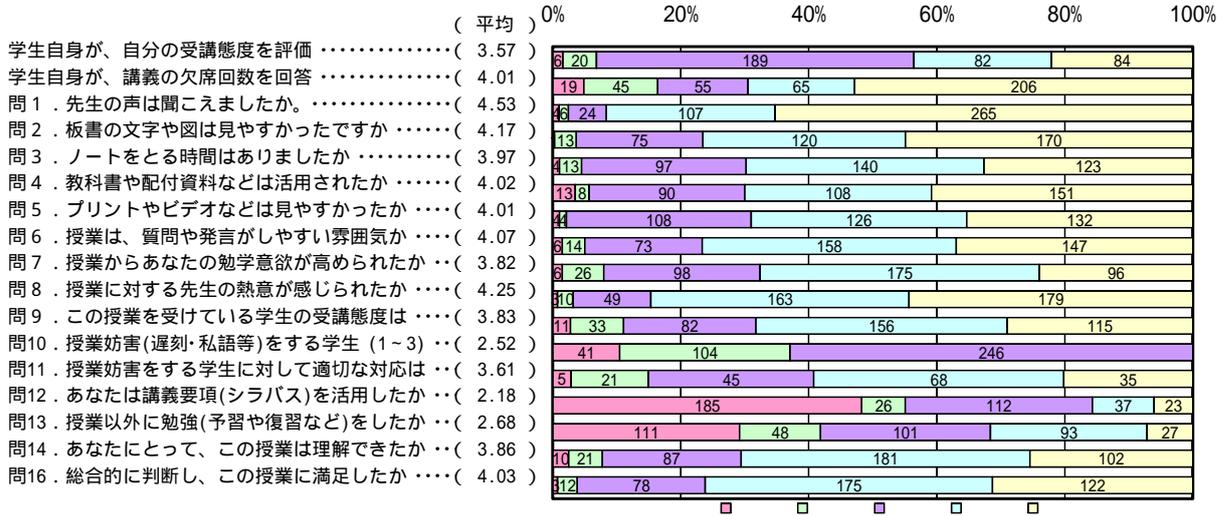


担当教員 自由設定設問

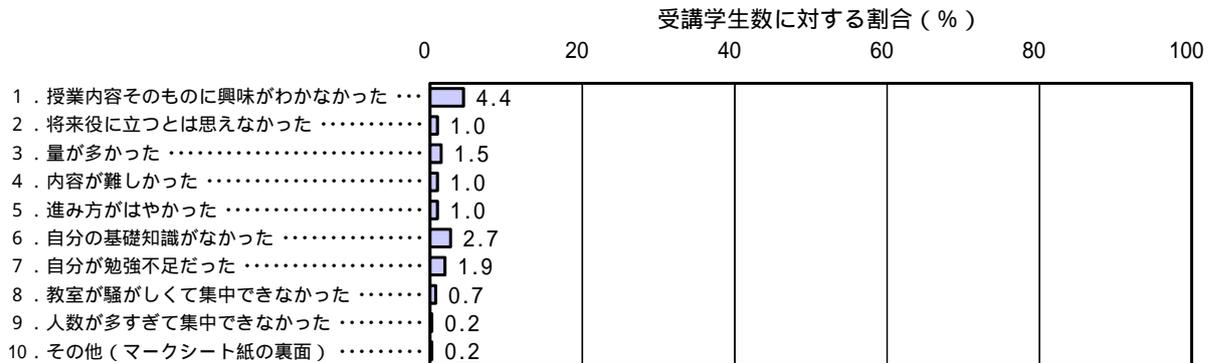


教養科目

アンケート集計結果(数値は票数)

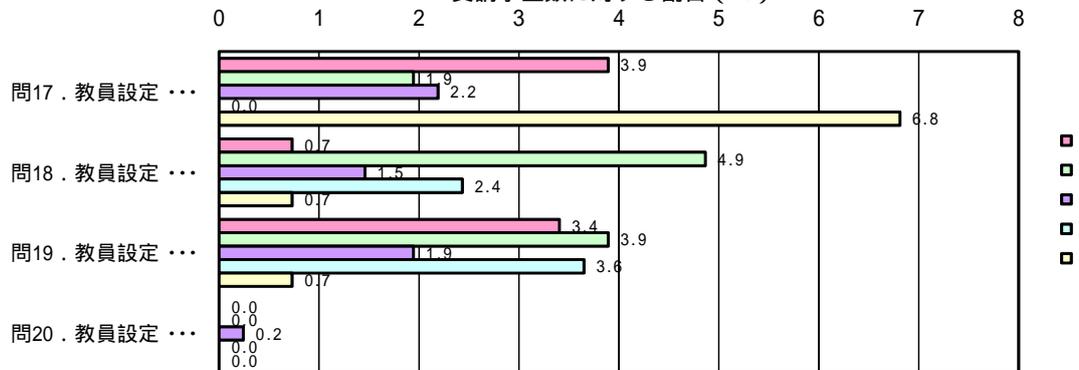


問15.授業が理解できなかった理由(問14で の場合、複数回答可)



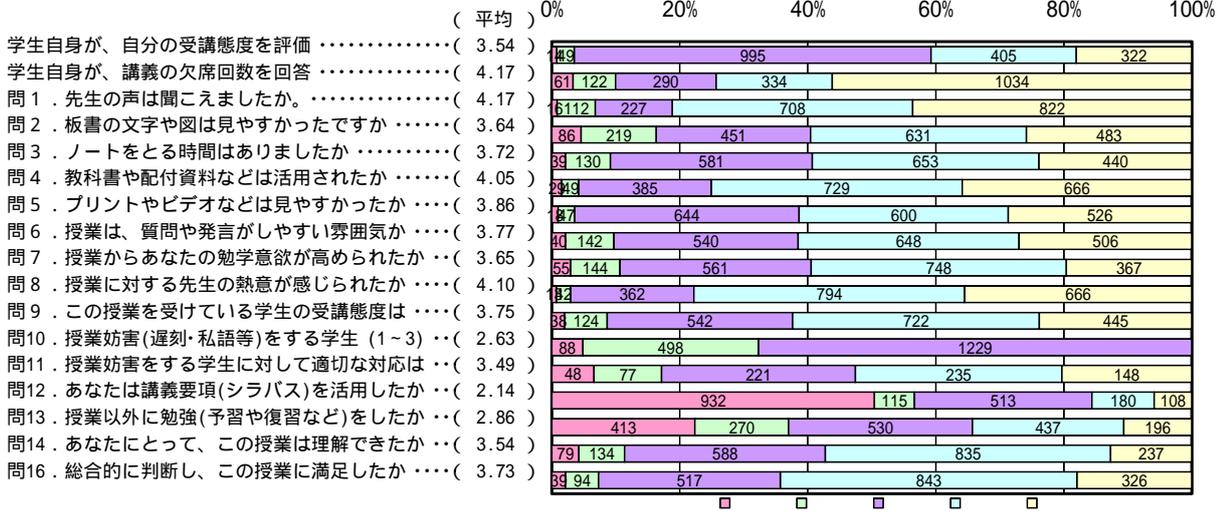
担当教員 自由設定設問

受講学生数に対する割合(%)

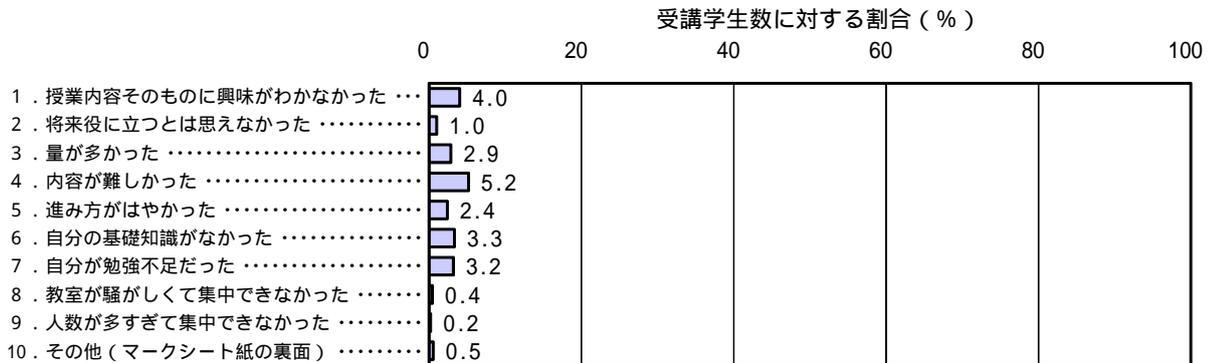


専門科目

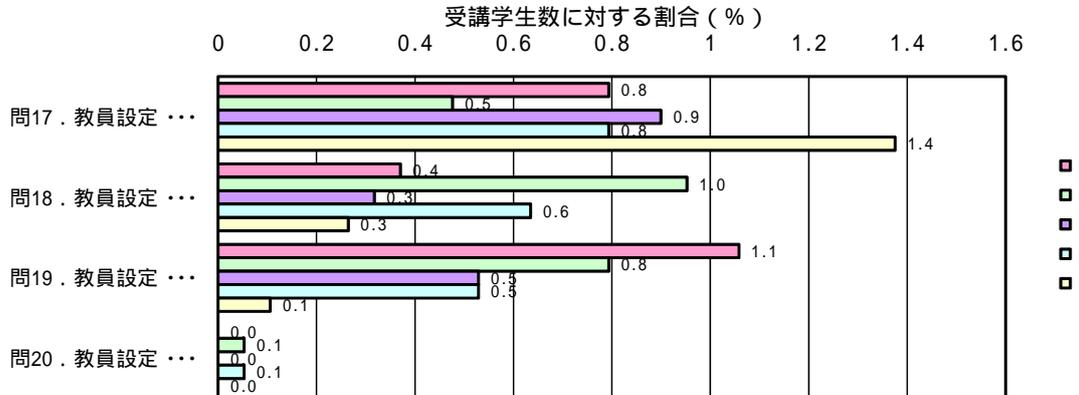
アンケート集計結果 (数値は票数)



問15.授業が理解できなかった理由(問14で の場合、複数回答可)

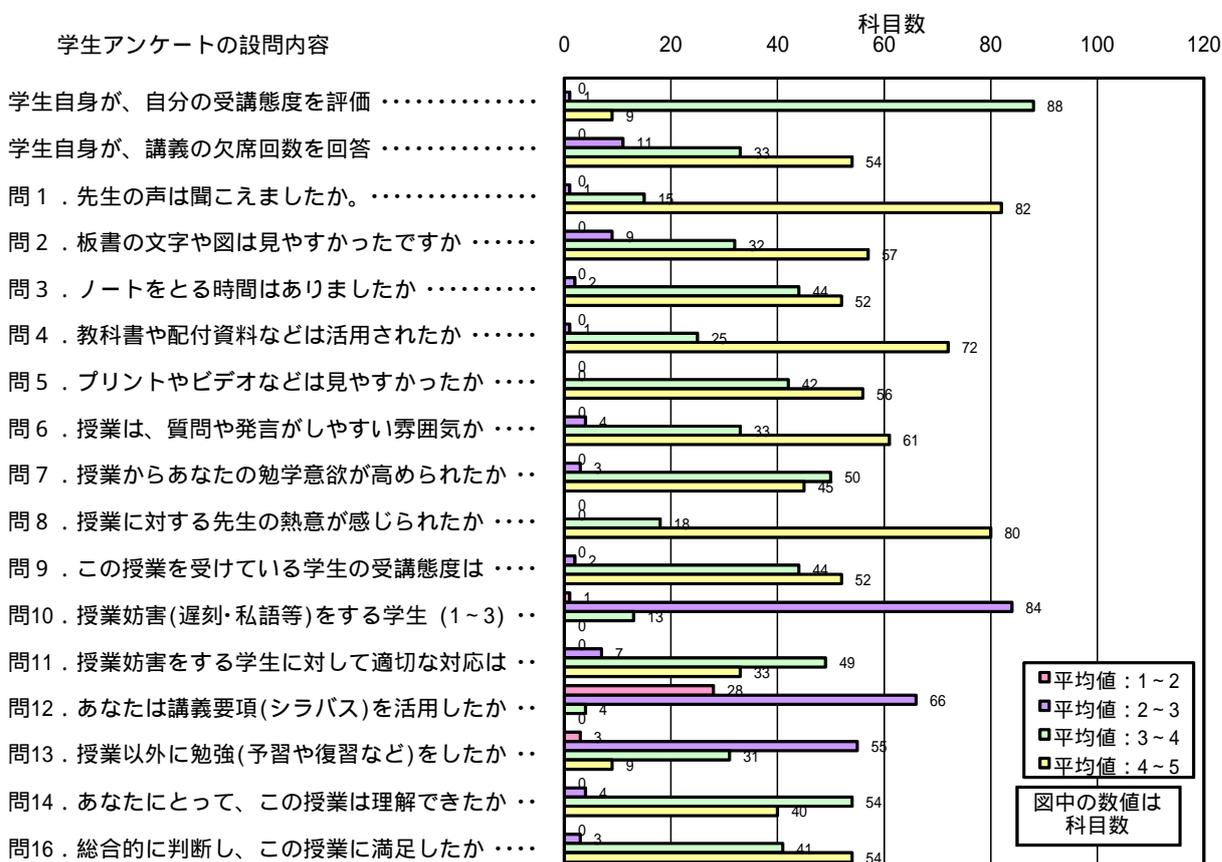


担当教員 自由設定設問

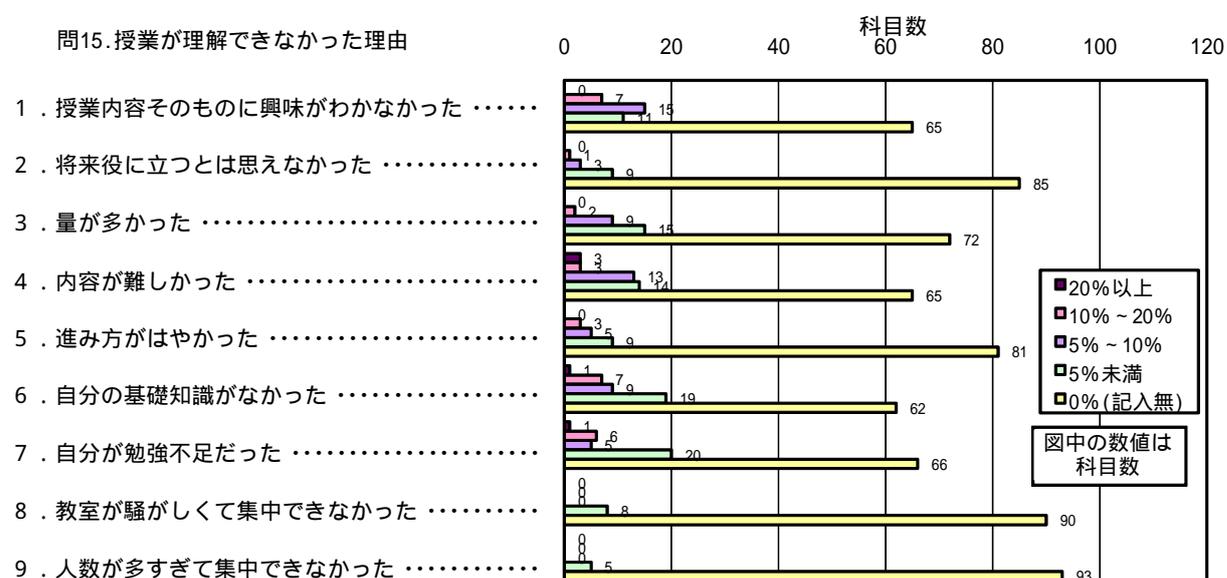


金沢学院短期大学 平成20年度後期 授業改善のための学生アンケート
 科目数の分布結果：短期大学の全科目数=98科目

「設問（問1～問16）」ごとの「平均値（1～5）」に対する科目数の分布



「授業が理解できなかった理由」ごとの「記入した学生割合」に対する科目数の分布



授業改善のための学生アンケート

マークはHB程度の鉛筆で二内を通りつめてください。

このアンケートは学生の皆さんが受講した授業科目を今後より一層充実させるため、実施するものです。成績評価とは全く関係ありません。率直かつ真剣にお答えください。



授業科目 _____ 教員氏名 _____

科目番号(とてに)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚

I. あなたについて、お尋ねします。当てはまる箇所をマークしてください。

学 科 コ ー ス ク ラ ス	生活デザイン	ふくふく文化	生活コミュニケーション	ビジネス文化	カレッジ・デザイン	アパレル・ファッション	スポーツ・健康	メディア・情報
	○	○	○	○	○	○	○	○
学 年	1年	受講態度	非常に悪い	やや悪い	普通	まあまあよい	非常によい	
	○		○	○	○	○	○	
	2年	欠席回数	4回以上	3回	2回	1回	0回	
	○		○	○	○	○	○	
	3年		○	○	○	○	○	
	4年		○	○	○	○	○	
	その他		○	○	○	○	○	

II. 授業について、お尋ねします。以下の各項目についてあなたはどのように思ったり、感じたりしましたが、各項目について当てはまる番号を1つ選び、マークしてください。

1	先生の声は聞こえましたか。	ほとんど聞こえなかった	あまり聞こえなかった	どちらともいえない	まあまあ聞こえた	よく聞こえた	
2	板書の文字・図は見やすかったですか。	見にくい	少し見にくい	どちらともいえない	まあまあ見やすい	見やすい	
3	ノートをとる時間はありましたか。	ほとんどない	あまりない	どちらともいえない	まあまああった	十分にあった	
4	教科書・参考書・配付資料などは活用されましたか。	ほとんど活用されませんでした	あまり活用されませんでした	どちらともいえない	まあまあ活用された	十分に活用された	
5	プリント・ビデオ教材・プロジェクター画面などは見やすかったですか。	見にくい	少し見にくい	どちらともいえない	まあまあ見やすい	見やすい	
6	授業中や授業後、質問や発言がしやすい雰囲気でしたか。	思わない	あまり思わない	どちらともいえない	まあまあ思う	そう思う	
7	この授業から、あなたの勉学意欲を高められましたか。	高められなかった	多少高められた	どちらともいえない	まあまあ高まった	高められた	
8	授業に対する先生の熱意が感じられましたか。	感じられなかった	多少感じられた	どちらともいえない	まあまあ感じられた	感じられた	
9	この授業を受けている学生の受講態度はあなたから見てどうでしたか。	良くなかった	あまり良くなかった	どちらともいえない	まあまあ良かった	良かった	
10	授業妨害(遅刻・私話・携帯操作を始め、授業以外のこと)をする学生はいましたか。	たくさんいた	少しいた	いなかった			
11	【10で】「たくさんいた」または【2】「少しいた」にマークした人だけ答えてください。授業妨害をする学生に対して適切な対応はなされていきましたか。	適切な対応は行われていた	多少適切な対応は行われていた	どちらともいえない	まあまあ適切に対応された	適切に対応された	
12	あなたは授業の「講義要項(シラバス)」を活用しましたか。	ほとんど活用しなかった	少し活用した	どちらともいえない	まあまあ活用した	大変活用した	
13	あなたは、授業中以外の時間(休憩時間や授業後)に、この授業の勉強(予習・復習・課題など)をしましたか。	ほとんど勉強しなかった	多少勉強した	どちらともいえない	まあまあ勉強した	勉強した	
14	あなたにとって、この授業は理解できましたか。	ほとんど理解できなかった	少し理解できなかった	どちらともいえない	まあまあ理解できた	大変よく理解できた	
15	【14の質問で】「ほとんど理解できなかった」または【2】「少し理解できなかった」にマークをした人だけ答えてください。理解できなかった理由は何か。当てはまる番号をマークしてください。(複数回答可)	<input type="checkbox"/> 授業内容そのものに興味がわかなかった。 <input type="checkbox"/> 授業後に立つとは思えなかったため、興味がわかなかった。 <input type="checkbox"/> 量が多かった。 <input type="checkbox"/> 内容が難しかった。 <input type="checkbox"/> 進み方がはやかった。 <input type="checkbox"/> 自分の基礎知識がなかった。 <input type="checkbox"/> 自分が勉強不足だった。 <input type="checkbox"/> 教室が騒がしくて集中できなかった。 <input type="checkbox"/> 人数が多すぎて集中できなかった。 <input type="checkbox"/> その他→マークした種、裏面に理由を書いてください。					
16	総合的に判断してあなたはこの授業に満足していますか。	かなり満足である	少し満足である	どちらともいえない	まあまあ満足している	大変満足している	
17		○	○	○	○	○	
18		○	○	○	○	○	
19		○	○	○	○	○	
20		○	○	○	○	○	

◎この授業について意見があれば、裏面に、自由に記入してください。 金沢学院短期大学

資料2

平成20年度 金沢学院短期大学の教育改善に向けた 卒業時アンケート集計結果

平成20年度 金沢学院短期大学の教育改善に向けた 卒業時アンケート集計結果

・目的

本アンケートは、卒業間近の本学2年生を対象とし、在学時の学習実態および学生生活の現状を明らかにすることを通して、今後の教育改善の可能性を探究するものである。

・方法

質問紙調査法を用いる。なお、調査者は各クラスの担任教員とし、各クラスでホームルーム時間を設けて、担任教員立会いのもとに実施する。

・対象

平成20年度本学卒業見込み学生177名。
生活デザイン学科73名、食物栄養学科93名、専攻科11名。

・時期

平成21年2月2日から2月10日(クラス毎に随時実施)

・結果

次ページより、質問1から質問13までの調査結果を「短期大学全体」、「生活デザイン学科」、「食物栄養学科」の順に掲載する。また、質問14から質問17までの自由記述に関しては、短期大学全体の結果としてキーワード抽出した後、語句を統一・整理して件数の多い順に掲載する。

・考察

1. 前回の実施結果(2006年度卒業生対象)との比較

- ・全体的にわずかながら低下。

全ての項目に「不満が残った」を記す学生が、少数存在したため。

- ・進学理由に「オープンキャンパス」「先輩や友人の勧め」が増加し「高校教員の勧め」が減少。
自ら情報収集する学生が増えてきたことが推察される。

2. 生活デザイン学科と食物栄養学科との比較

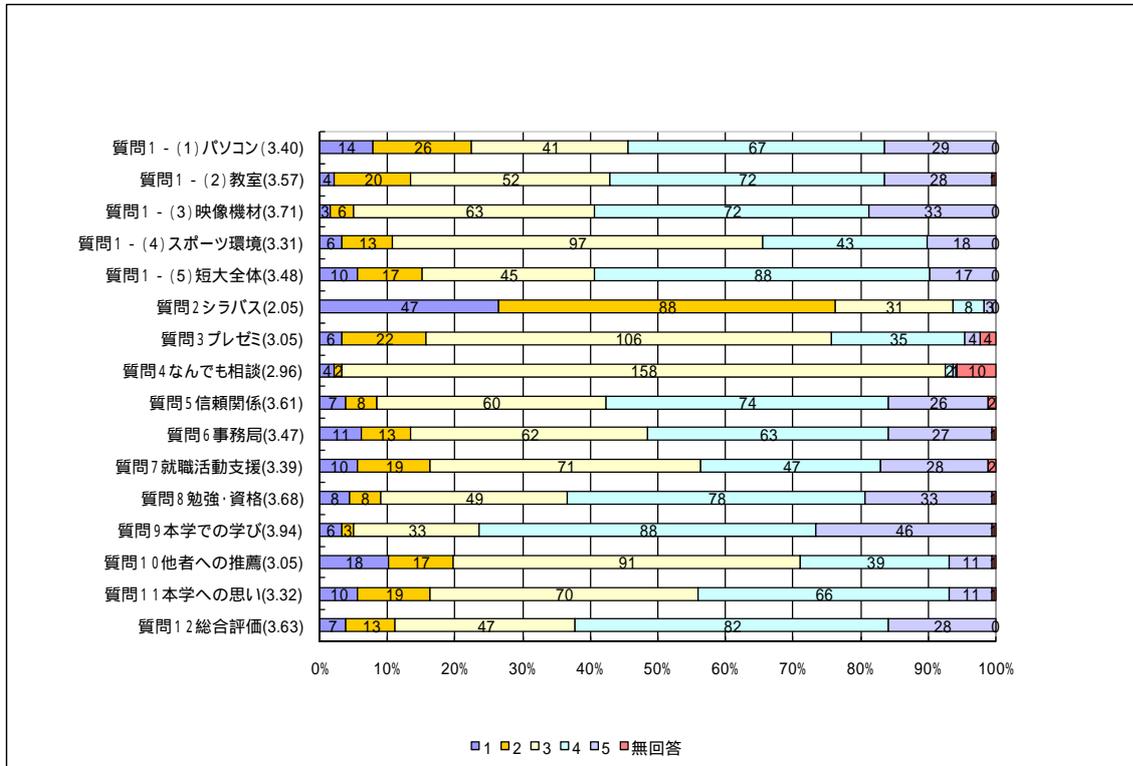
- ・学習環境面のうち、パソコン設備で食物栄養学科が高い以外は、両学科でほとんど差がない。
- ・学びに対する満足度は、食物栄養学科の方がわずかに高い
習得した知識と進路との関連性が高く、資格取得(栄養士免許)の果たす役割が大きい。

3. 本調査の全体的な傾向

- ・複数の資格取得、課外活動経験のある学生の満足度は両学科ともに高い。
- ・シラバス未使用、「なんでも相談」の存在を知らなかった学生が非常に多い。
- ・本学への満足度の高さと比較すると、「本学を他者に勧めたい」という割合はやや低い。

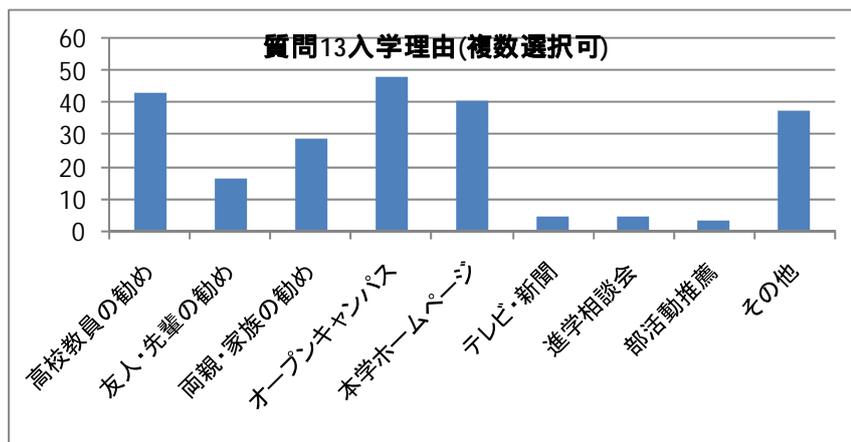
(小林淳一)

金沢学院短期大学 短大全体



質問 1 から質問 12 までの自由記述で 3 件以上挙げられた項目一覧

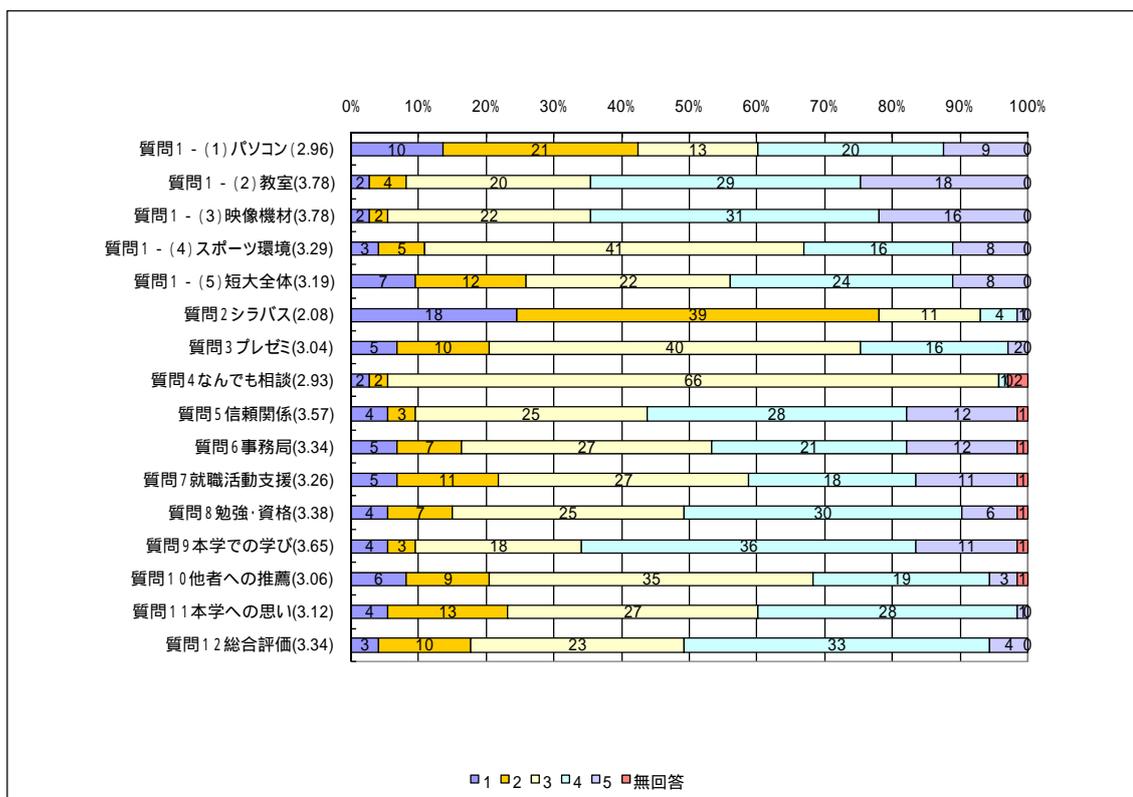
パソコン・黒板・冷暖房・教室・体育館・食堂・トイレ・売店・なんでも相談利用無・シラバス利用無・学生部・教務部・就職指導部・担任・栄養士・助手



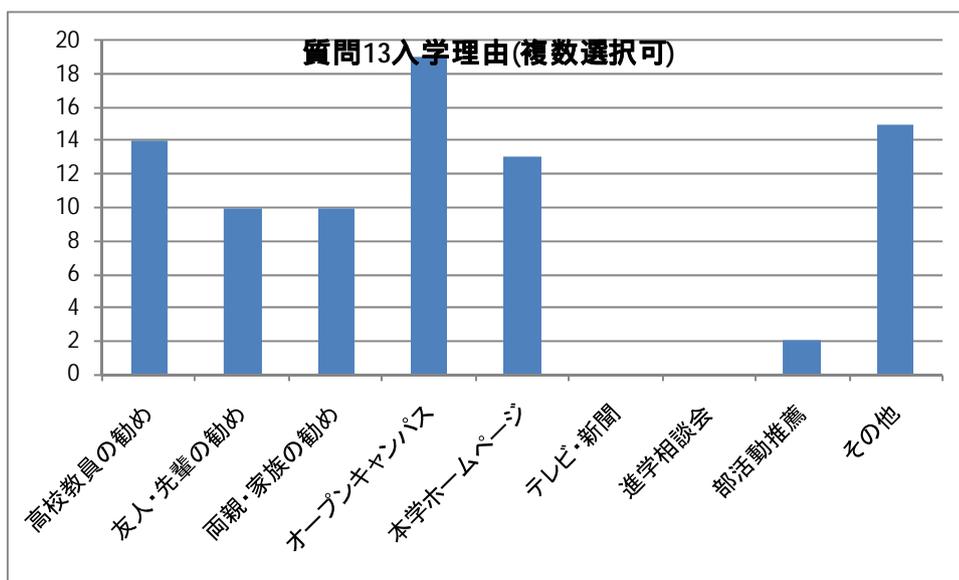
入学理由(その他)の具体的説明

金沢東高校・栄養士・県内(石川県)・アパレル・短大一覧の本・パンフレット・奨学金・試験科目・兄弟

金沢学院短期大学 生活デザイン学科

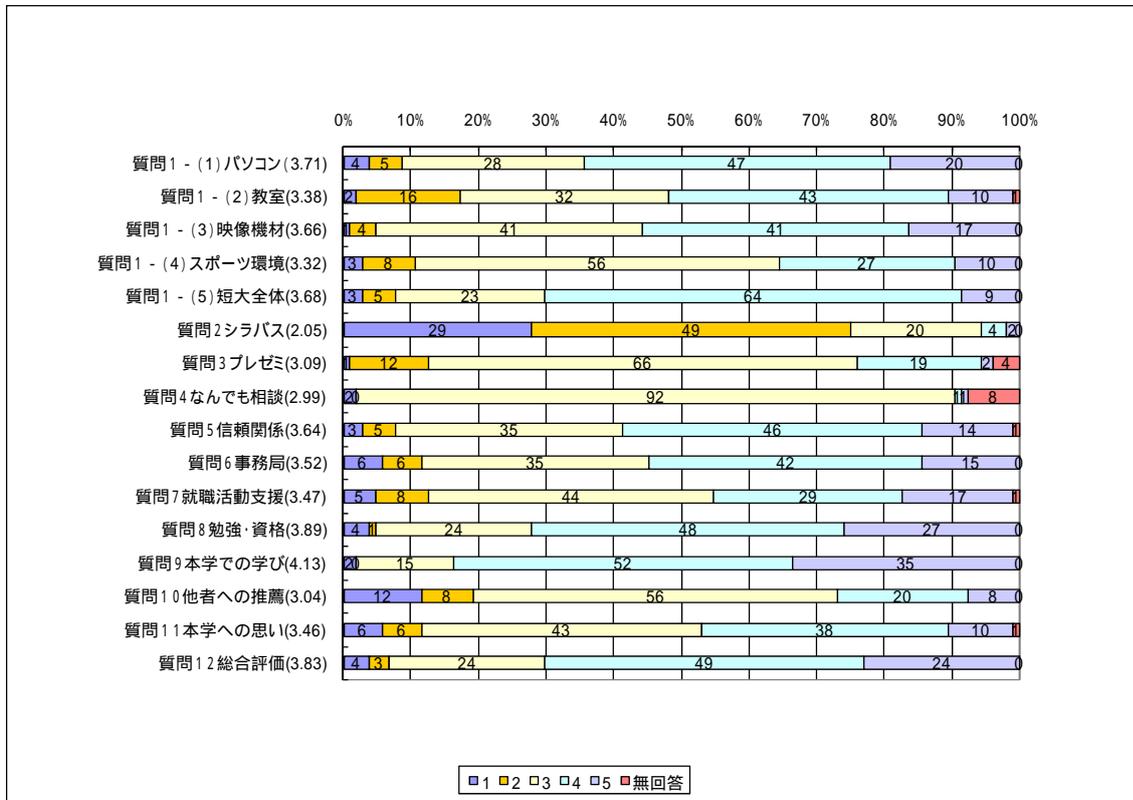


質問 1 から質問 12 までの自由記述で 3 件以上挙げられた項目一覧

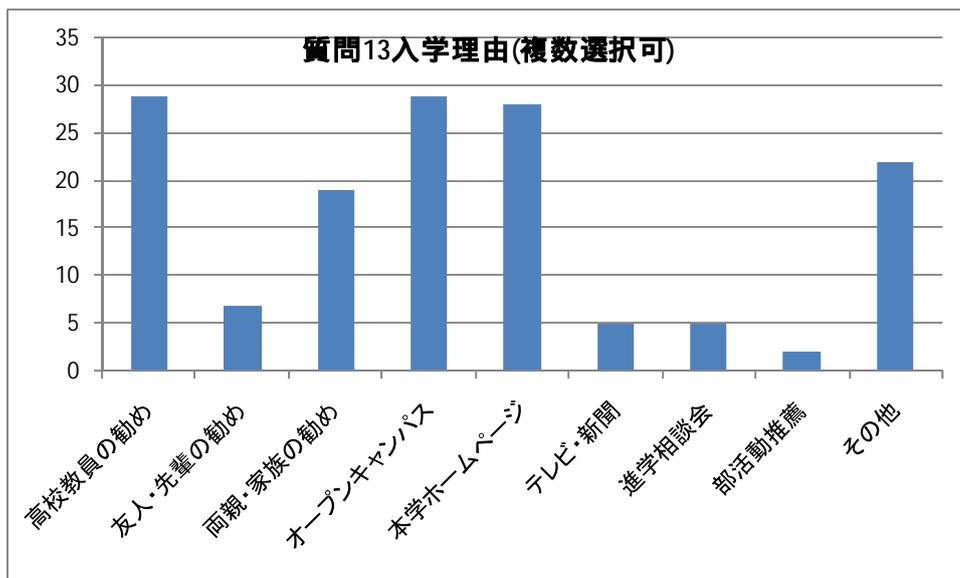


入学理由(その他)の具体的説明

金沢学院短期大学 食物栄養学科



質問 1 から質問 12 までの自由記述で 3 件以上挙げられた項目一覧



入学理由(その他)の具体的説明

質問 14. 課外活動実績

・ 学友会等	23
・ 運動部	20
・ 北三大会	15
・ ボランティア	7
・ 文化部	6
・ サークル	4
・ ジャパンテント	4
・ マネージャー	3
・ 部活動	2
・ ゴミ拾い	2
・ 公開講座	1
・ 研究会	1
・ オープンキャンパス	1
・ 海外研修	1
・ ダンススクール	1
・ 作品展示	1
・ 空欄	57
・ しなかった・なし	51

質問 15. 在学中に取得した資格一覧

・ 漢字検定	42
・ 栄養士	17
・ ファッション販売	15
・ 色彩	15
・ ファッションビジネス	13
・ 医事事務関係	13
・ 秘書士	11
・ 情報処理士	10
・ ビジネス実務士	10
・ 秘書検定	8
・ 社会福祉主事	7
・ 栄養教諭	6
・ ビジネス文書	6
・ 運転免許	6
・ 福祉住環境コーディネータ	4
・ コンピュータサービス技能	3
・ ワークプロ技士	1
・ ホームヘルパー	1
・ TOEIC	1
・ オーラソーマ	1
・ カラーコーディネータ	1
・ ファッション系	1
・ ファッション造形知識	1

・ 空欄	46
・ なし	34

質問 16. 在学中特にがんばったこと

・ 学業(テスト、授業など)	87
・ 課外活動	20
・ 資格	16
・ 就職活動	10
・ 文化祭	9
・ 人間関係(友達、先生)	7
・ バイト	7
・ 通学	5
・ 北三大会	4
・ 校外実習	3
・ 教育実習	3
・ 1人暮らし	2
・ コンクール	2
・ 食事	2
・ インターンシップ	1
・ 恋愛	1
・ あいさつ	1
・ なし	5
・ 空欄	37

質問 17. 学生生活全般の思い出・要望

・ 食堂(学食、パンなど)	43
・ シャトルバス	31
・ 駐車場	28
・ 学生生活	11
・ キャンパス(環境、設備など)	7
・ パソコン	6
・ 教職員	6
・ 売店	5
・ トイレ	5
・ 授業	4
・ 学園祭	3
・ 図書館	3
・ たばこ	3
・ 通学	3
・ 教室	2
・ 虫	2
・ 奨学金	1
・ 空欄	57
・ なし	8

4. 「学生なんでも相談」はいかがでしたか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
不満が残った	不満が残った	いけない	満足した	満足した

5. 教職員との間に信頼関係はあったと思いますか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
そう思わない	そう思わない	いけない	そう思う	そう思う

6. 短期大学事務局（教務部、学生部など）の対応はいかがでしたか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
不満が残った	不満が残った	いけない	満足した	満足した

7. あなたの就職活動について、短期大学の対応はいかがでしたか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
不満が残った	不満が残った	いけない	満足した	満足した

8. 本学での勉強内容や資格・検定取得は、あなたの進路に役立つと思いますか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
そう思わない	そう思わない	いけない	そう思う	そう思う

9. 本学で学んだことがあなたの将来に活きますか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
そう思わない	そう思わない	いけない	そう思う	そう思う

10. 本学を兄弟や後輩、友人に勧めたいと思いますか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
そう思わない	そう思わない	いけない	そう思う	そう思う

!

11. 入学前と現在を比較して、本学に対する思いは次のうちのどれですか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
不満が残った	不満が残った	いけない	満足した	満足した

12. 総合的に判断して、あなたは本学で学んでいかがでしたか。

	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	
不満が残った	不満が残った	いけない	満足した	満足した

13. 金沢学院短期大学に入学したきっかけを次の中から選んでください。いくつ回答してもかまいません。項目以外のきっかけがある場合は、『 その他』を選び、カッコの中に記述してください。

- 高校の先生に勧められて
- 友人や先輩に勧められて
- 両親や家族に勧められて
- 本学のオープンキャンパスに参加して
- 短期大学ホームページをみて
- テレビや新聞の案内をみて
- 進学相談会に参加して
- 部活動の推薦を受けて
- その他 ()

以下の各項目に対して、あなたの意見・感想を教えてください。

14. 部活動・サークル活動・学友会活動・ボランティア活動などをしましたか。在学中に参加した課外活動を、全て書いてください。

15. 在学中にどのような資格を取得しましたか。取得した資格を、全て書いてください。

16. 在学中に、あなたが特にがんばったことを書いてください。(複数回答可)

17. 質問項目の他に、通学環境(シャトルバスや駐車場など)、学生食堂、キャンパス全体など、金沢学院短期大学に対するあなたの意見や要望、さらには学生生活全般を通しての感想や思い出がありましたら、自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。

資料3

第5回FD研修会 参加者アンケート集計結果

第5回FD研修会 参加者アンケート集計結果

1. 開催日・出席者数

開催日 : 2009年3月3日(火)

出席者数 : 46名

内訳 : 短期大学教員30名(助手含)、金沢学院職員9名、その他教員7名

2. Moodle について

とても興味がある..... 7

興味がある.....14

あまり興味がない..... 4

興味が無い..... 0

<コメント>

- ・学生のパソコンを使用する授業をもっと増やしていくいい活用法だと思います。
- ・学生がPCをもっている環境をつくるとよい。ノートでなくノートパソコンで授業を書くのは普通なのでは。
- ・授業の雰囲気が変わって学生の興味もわくと思う。
- ・あらたな授業方法として興味深く聞くことができた。自分の授業の中に活用できるか検討してみたい。
- ・自身の科目に活用するのは難しいが、担任業務の負担を減らすには活用してみたい。
- ・詳細について調べたく思います。
- ・対面しない(教員-学生、学生-学生)弊害(人付き合い、気持ちの思いやり、人間性)をどのように考えるか。
- ・できるだけ早いうちに利用したいと考えています。
- ・ビジネス系の授業では特に活用できるのではないかと感じました。出席管理には特に有効と感じます。
- ・便利な手法であり、興味はあるが、多人数の学生である場合の使用の仕方には工夫が必要なのかと思われた。又、学生と教員との向かい合った対話が減るのではという不安がある。

3. 授業改善アンケートの設問について	非常に重要	不要	現状で良い
問1. 先生の声は聞こえましたか。 ……………	7	1	19
問2. 板書の文字・図は見やすかったですか。 ……………	6	1	20
問3. ノートをとる時間はありましたか。 ……………	5	3	19
問4. 教科書・参考書・配付資料などは活用されましたか。 ……………	5	1	21
問5. プリント・ビデオ教材・プロジェクター画面などは見やすかったですか。 ……………	7	0	20
問6. 授業中や授業後、質問や発言がしやすい雰囲気でしたか。 ……………	9	2	16
問7. この授業から、あなたの勉学意欲を高められましたか。 ……………	10	2	15
問8. 授業に対する先生の熱意が感じられましたか。 ……………	7	0	20
問9. この授業を受けている学生の受講態度はあなたから見てどうでしたか。 ……………	7	2	18
問10. 授業妨害(遅刻・私語・携帯操作など)をする学生はいましたか。 ……………	6	0	21
問11. 授業妨害をする学生に対して適切な対応はなされていましたか。 ……………	5	0	22
問12. あなたは授業の「講義要項(シラバス)」を活用しましたか。 ……………	3	11	13
問13. あなたは、授業以外の時間に勉強(予習・復習・課題など)をしましたか。 ……………	7	0	20
問14. あなたにとって、この授業は理解できましたか。 ……………	12	0	15
問15. 授業が理解できなかった理由(問14で 〇の場合、複数回答可) ……………	15	0	12
問16. 総合的に判断してあなたはこの授業に満足していますか。 ……………	9	0	18

4. 卒業時アンケートの設問について	非常に重要	不要	現状で良い
問1. 学内の施設や機器備品についてお尋ねします。 ……………	5	0	22
問2. シラバス(講義要項)を利用しましたか。 ……………	1	11	15
問3. プレゼминаール(1年次火曜4限)の内容はいかがでしたか。 ……………	4	2	21
問4. 「学生なんでも相談」はいかがでしたか。 ……………	4	1	22
問5. 教職員との間に信頼関係はあったと思いますか。 ……………	7	0	20
問6. 短期大学事務局(教務部、学生部など)の対応はいかがでしたか。 ……………	7	0	20
問7. あなたの就職活動について、短期大学の対応はいかがでしたか。 ……………	7	0	20
問8. 本学での勉強内容や資格・検定取得は、あなたの進路に役立つと思いますか。 ……	6	0	21
問9. 本学で学んだことがあなたの将来に活きると思いますか。 ……………	5	0	22
問10. 本学を兄弟や後輩・友人に勧めたいと思いますか。 ……………	4	1	22
問11. 入学前と現在を比較して、本学に対する思いは次のうちのどれですか。 ……………	6	1	20
問12. 総合的に判断して、あなたは本学で学んでいかがでしたか。 ……………	10	0	17
問13. 金沢学院短期大学に入学したきっかけを次の中から選んでください。 ……………	6	0	21
問14. 部活動・サークル活動・学友会活動・ボランティア活動などをしましたか。 ……	3	1	23
問15. 在学中にどのような資格を取得しましたか。 ……………	4	0	23
問16. 在学中に、あなたが特にがんばったことを書いてください。 ……………	6	2	19
問17. 通学環境、学生食堂、キャンパスなどの意見や要望。学生生活の思い出など。 ……	8	1	18

5. 今後のFD活動など、自由に記述して下さい。

- ・FD集会の大切さを一層実感しました。ご準備と併せありがとうございました。
- ・「卒業時アンケート - 問8 . ~ 勉学内容や資格・検定取得は、~ 」について、まとめすぎ
- ・学生と同様、立場的に本当のことが言えないが、とても良い活動であると思う。学生のこと
が一番大事なので、精神疾患や身体疾患などについても検討できればよいと思う。過呼吸を
引き起こす学生が多く、対応できない職員をみると驚く。
- ・FD活動が直接行いやすい、具体的なアンケートにしたらよいのでは。
- ・アンケート結果からみられる学生の満足度や改善内容について知ることができた。改善され
ることなど、アンケートが意味のあるものになるよう、今後につなげていくことが、大切だ
と思います。学生に伝えていかななくては。
- ・「卒業時アンケート - 問9 . 本学で学んだことがあなたの将来に活きますか。」につ
いて、もっとも重要な質問であるが、どんな授業が役立つと考えるかなど具体的質問を設定
してはどうか
- ・「卒業時アンケート - 問7 . ~ 短期大学の~ 」について、具体的に教員、就職支援センター
とした方がよいのでは？
- ・実施されている授業方法のうち、効果の上がっているものなどを数多く知りたいので、報告
を伺いたい。
- ・意見交換の時間がもっとあっても良い。
- ・教育理念について学生一人一人に浸透させる活動の具体化（長期的に何年計画（3年計画く
らいか）で）
- ・ポストイットを用いたグループ討論において、他学科の先生とのフリートークが出来てよ
いと思います。
- ・改善アンケートに、「あなたはこの科目が重要であると思いましたが」を加える。
- ・FD報告書は別としても、研修会の資料集などは、各自でプリントアウトして持参してはど
うでしょうか？（特別に必要な部科長等のものは別として）。学生はもちろんのこと、教職
員に対するアンケートや充実度を計るものがあれば良いと思います。授業改善アンケートは
担当の先生以外の方が行った方がよいのではないかと思います。
- ・FD活動における改善策を具体的に取り上げ、実行する。
- ・意識の低い学生に対して学院全体でどう取り組むべきか教職員の共通認識と法人の学生全体
の質を高めてゆこうとする意識向上が必要と思われる。（定員をへらしてでも）

（松井良雄）

【編集】 金沢学院短期大学 FD 委員会

【発行日】 2009 年 6 月 30 日